

nord electro 6

ユーザー・マニュアル

Nord Electro 6
日本語版

OSバージョン:1.18

はじめに



安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保身に關わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記マークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

| | |
|--|--|
| | △記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。 |
| | ⊘記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「分解禁止」を表しています。 |
| | ●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。 |

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
 - 電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線を接続する。アース接続を外す場合は、電源プラグをコンセントから取り外してから行う。
 - 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。感電やショート恐れがあります。
 - 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。

- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき

- 本製品を分解したり改造したりしない。
- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対に行わない。
 - 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。
 - 電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
 - 大音量で不快な程度の音量で長時間使用しない。
 - 大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
 - 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
 - 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。
 - 振動の多い場所で使用や保管はしない。
 - ホコリの多い場所で使用や保管はしない。

- 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。
- 雨天時の野外のように、湿気が多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。
 - 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
 - 本製品に液体をこぼさない。

- 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります

- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
 - ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
 - 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
 - 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。
- 本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。
- 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
 - 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。
 - 本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
 - スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。故障の原因になります。
 - 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強酸性のポリッシャーを使用しない。
 - 不安定な場所に置かない。
 - 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
 - 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
 - お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
 - 地震時は本製品に近づかない。
 - 本製品に前後方向から無理な力を加えない。本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。データを他のメディア等へセーブすることのできる製品では、大切なデータはこまめにセーブすることをお勧めします。

目次

| | | | |
|-----------------------------------|----|-----------------------------------|----|
| 1 はじめに | 5 | パイプ・オルガン..... | 13 |
| ありがとうございます！..... | 5 | PIPE1..... | 13 |
| 主な特徴..... | 5 | PIPE2..... | 13 |
| NORD ウェブサイトについて..... | 5 | PIPE1/PIPE2 のコーラス..... | 13 |
| このマニュアルについて..... | 5 | PIPE1/PIPE2 のレジスター..... | 13 |
| PDF 版マニュアル..... | 5 | プリセット..... | 13 |
| ファクトリー・プリセットに戻す..... | 5 | マニュアル・オルガン..... | 13 |
| OS アップグレード..... | 5 | デュアル・オルガン..... | 13 |
| フリー・サウンド..... | 5 | ローキー盤を編集する..... | 13 |
| 商標について..... | 5 | ロータリー・スピーカー..... | 13 |
| 2 概要 | 6 | 5 ピアノ | 14 |
| Electro 6 のパネル..... | 6 | オン/オフの切り替えとレベルおよびゾーンの選択..... | 14 |
| オルガン・セクション - 10 ページ..... | 6 | OCTAVE UP/DOWN..... | 14 |
| ピアノ・セクション - 14 ページ..... | 6 | [SUSTPED] と [CTRLPED]..... | 14 |
| プログラム・セクション - 16 ページ..... | 6 | ピアノ・サウンドについて..... | 14 |
| サンプル・シンセ・セクション - 19 ページ..... | 6 | ピアノ・サイズについて..... | 14 |
| エフェクト・セクション - 20 ページ..... | 6 | ピアノ・セレクト..... | 14 |
| 3 使い始める | 7 | カテゴリとモデル..... | 14 |
| 接続する..... | 7 | リスト・ビュー..... | 15 |
| パネル・コントロール..... | 7 | KBD TOUCH..... | 15 |
| ダイヤルとノブ..... | 7 | ピアノ・インフォ..... | 15 |
| ボタン..... | 7 | モノ..... | 15 |
| [SHIFT] ボタン..... | 7 | ストリング・レゾナンスとソフト・リリース..... | 15 |
| ディスプレイ上のボタン..... | 7 | ストリング・レゾナンス..... | 15 |
| プログラム..... | 7 | ソフト・リリース..... | 15 |
| プログラムを選択する..... | 7 | イコライザー..... | 15 |
| リスト・ビュー..... | 8 | PIANO EQ 設定..... | 15 |
| プログラムをエディットする..... | 8 | 6 プログラム | 16 |
| 別のピアノ・サウンドを選ぶ..... | 8 | 保存する..... | 16 |
| メモリー・プロテクトをオフにする..... | 8 | プログラムを保存する..... | 16 |
| プログラムを保存する..... | 8 | プログラムに名前を付ける ([STORE AS...])..... | 16 |
| ライブ・モード..... | 8 | KBD スプリット..... | 16 |
| エフェクトをオンにする..... | 9 | キーボード・スプリットの設定..... | 16 |
| ロータリー・スピーカーをオンにする..... | 9 | スプリット・ポジションを選択する..... | 17 |
| スプリットを作成する..... | 9 | スプリット幅の設定..... | 17 |
| ピアノをアッパー・ゾーンに割り当てる..... | 9 | External KBD to Lo..... | 17 |
| サンプル・シンセをロー・ゾーンにセットする..... | 9 | [SHIFT]/[EXIT] ボタン..... | 17 |
| サンプルをロードする..... | 9 | ライブ・プログラム..... | 17 |
| スプリット・クロスフェード (スプリット幅) を設定する..... | 9 | トランスポーズ・オン/セット..... | 17 |
| 二段鍵盤の B3 を作成する..... | 9 | プログラム・ボタン..... | 17 |
| 4 オルガン | 10 | プログラムとは?..... | 17 |
| オン/オフの切り替えとレベルおよびゾーンの選択..... | 10 | プログラム・イニシャライズ..... | 17 |
| OCTAVE UP/DOWN..... | 10 | [PROGRAM] ダイアル..... | 17 |
| [SUSTPED] と [CTRLPED]..... | 10 | プログラムリストの [Abc] と [Cat]..... | 18 |
| ドローバーとドローバー・ボタン..... | 10 | 数字パッドによるナビゲーション・モード..... | 18 |
| オルガン・モデルを選択する..... | 11 | MIDI LED インジケータ..... | 18 |
| B3 モデル..... | 11 | ページ・ボタン..... | 18 |
| B3 ドローバー..... | 11 | 並べ替え..... | 18 |
| パーカッション..... | 11 | [ORGANIZE] ビューを開く..... | 18 |
| キー・クリック・コントロール..... | 11 | プログラムまたはページをスワップする..... | 18 |
| VOX モデル..... | 12 | プログラムまたはページを移動する..... | 18 |
| VOX ドローバー..... | 12 | 7 サンプル・シンセ | 19 |
| ビブラート..... | 12 | オン/オフの切り替えとレベルおよびゾーンの選択..... | 19 |
| FARF モデル..... | 12 | OCTAVE UP/DOWN..... | 19 |
| FARF レジスター..... | 12 | [SUSTPED] と [CTRLPED]..... | 19 |
| ビブラート..... | 13 | サンプル・シンセについて..... | 19 |
| | | サンプルを選択する..... | 19 |
| | | リスト・ビュー..... | 19 |

| | | | |
|---|----|--|----|
| サウンドを形成する..... | 19 | 10 - LOCAL CONTROL..... | 27 |
| DYNAMICS..... | 19 | 11 - CHANNEL..... | 27 |
| FILTER..... | 19 | GLOBAL..... | 27 |
| [ATTACK], [SUSTAIN], [DECAY/RELEASE]..... | 19 | EXTERNAL KBD..... | 27 |
| <hr/> | | 12 - CONTROL/PROGRAM CHANGE MODE..... | 27 |
| 8 エフェクト | 20 | CC (コントロール・チェンジ)..... | 27 |
| エフェクトをオンにする..... | 20 | PC (プログラム・チェンジ)..... | 27 |
| エフェクト 1..... | 20 | 13 - TRANSPOSE MIDI AT..... | 27 |
| TREM (トレモロ)..... | 20 | サウンド・メニュー..... | 27 |
| PAN (オート・パン)..... | 20 | 1 - PIANO STRING RES LEVEL..... | 27 |
| RM (リング・モジュレーション)..... | 20 | 2 - B3 ORGAN TONEWHEEL MODE..... | 27 |
| CTRLPED..... | 20 | 3 - B3 ORGAN CLICK LEVEL..... | 27 |
| エフェクト 2..... | 21 | 4 - B3 ORGAN KEYBOARD TRIGGER POINT..... | 27 |
| PHAS 1&2 (フェイザー)..... | 21 | 5 - ROTARY SPEAKER..... | 27 |
| FLANG (フランジャー)..... | 21 | 6 - ROTARY BALANCE..... | 27 |
| CHOR 1&2 (コーラス)..... | 21 | 7 - ROTARY ROTOR..... | 27 |
| VIBE (ヴァイブ)..... | 21 | SPD (スピード)..... | 27 |
| DEEP..... | 21 | ACC (アクセラレーション)..... | 27 |
| ディレイ..... | 21 | 8 - ROTARY HORN..... | 27 |
| TEMPO TAP..... | 21 | SPD (スピード)..... | 27 |
| SPKR/COMP..... | 21 | ACC (アクセラレーション)..... | 27 |
| DRIVE/COMP..... | 21 | <hr/> | |
| アンプ・モデル..... | 21 | 12 接続について | 28 |
| ロータリー..... | 21 | オーディオの接続..... | 28 |
| ロータリー・メニューの設定..... | 22 | HEADPHONES..... | 28 |
| COMP..... | 22 | LEFT OUT, RIGHT OUT..... | 28 |
| イコライザー..... | 22 | MONITOR IN..... | 28 |
| リバーブ..... | 22 | MIDI の接続..... | 28 |
| PANIC..... | 22 | MIDI IN..... | 28 |
| <hr/> | | MIDI OUT..... | 28 |
| 9 MIDI | 23 | USB 接続..... | 28 |
| MIDI 機能..... | 23 | ペダル接続..... | 28 |
| グローバル MIDI..... | 23 | SUSTAIN PEDAL..... | 28 |
| 本機での演奏を MIDI シーケンサーや DAW にレコーディングする..... | 23 | CONTROL PEDAL..... | 28 |
| External KBD to Lo 機能..... | 23 | ROTOR PEDAL..... | 28 |
| MIDI メッセージ..... | 23 | <hr/> | |
| ノート・オン/オフ..... | 23 | II 付録：MIDI コントローラー・リスト | 29 |
| コントローラー..... | 23 | <hr/> | |
| キーボード・ベロシティ..... | 24 | III 付録：索引 | 30 |
| プログラム・チェンジ..... | 24 | <hr/> | |
| ローカル・コントロールのオン/オフ..... | 24 | 仕様..... | 31 |
| PANIC..... | 24 | <hr/> | |
| <hr/> | | <hr/> | |
| 10 NORD SOUND MANAGER | 25 | <hr/> | |
| NORD SOUND MANAGER について..... | 25 | <hr/> | |
| 動作環境..... | 25 | <hr/> | |
| <hr/> | | <hr/> | |
| 11 メニュー | 26 | <hr/> | |
| システム・メニュー..... | 26 | <hr/> | |
| 1 - MEMORY PROTECT..... | 26 | <hr/> | |
| 2 - NUMPAD PROGRAM SELECT..... | 26 | <hr/> | |
| 3 - SEAMLESS PROGRAM LOAD..... | 26 | <hr/> | |
| 4 - GLOBAL TRANSPOSE..... | 26 | <hr/> | |
| 5 - FINE TUNE..... | 26 | <hr/> | |
| 6 - OUTPUT ROUTING MODE..... | 26 | <hr/> | |
| 7 - SUSTAIN PEDAL..... | 26 | <hr/> | |
| TYPE..... | 26 | <hr/> | |
| FUNC (機能)..... | 26 | <hr/> | |
| 8 - ROTER PEDAL..... | 26 | <hr/> | |
| TYPE..... | 26 | <hr/> | |
| FUNC (機能)..... | 26 | <hr/> | |
| 9 - CONTROL PEDAL..... | 26 | <hr/> | |
| TYPE..... | 26 | <hr/> | |
| GAIN..... | 27 | <hr/> | |

1 はじめに

ありがとうございます！

Nord Electro 6 をお買い上げいただきありがとうございます！

Nord Electro 6 は、クラシックなエレクトロ・メカニカル・キーボードやアコースティック・キーボードを忠実に再現した定評のあるサウンドを、軽量コンパクトで持ち運びに便利なサイズにまとめたステージ・キーボードです。3つの独立したサウンド・セクションで構成されており、合理化された新しいユーザー・インターフェイスとシームレス・トランジションを採用しています。Electro 史上最もパワフルでフレキシブルな、洗練されたモダン・クラシック Nord Electro 6 をお届けします。

主な特徴

Nord Electro 6 には次のような主な特徴があります。

- 評価の高い Nord C2D コンボ・オルガンにも搭載されている、B3、Vox、Farf の3種のクラシック・オルガン・モデルを忠実に再現したオルガン・セクション。独特なサウンドを持つ2つのパイプ・オルガン・モデルも搭載。
- 61 鍵と 73 鍵の D モデルには物理ドローパーを搭載。73 鍵の HP モデルにはデジタル LED ドローパーを搭載。
- グランド・ピアノ、アップライト・ピアノ、エレクトリック・ピアノ、デジタル・ピアノ、クラビネットやハーブシコードなどのサウンドに加え、ピアノ・サウンドを組み合わせる豊かな音色を作り出せるレイヤー・カテゴリーを搭載したピアノ・セクション。Electro 6 のピアノ・セクションのメモリー容量は 1GB。
- 512MB のサンプル・メモリーを搭載し、直感的な操作が可能なエンベロープ・コントロールとダイナミック・コントロールを備えたサンプル・シンセ・セクション。
- 幅広く、自由度の高い音作りをサポートするエフェクト・セクション。
- プログラムを切り替えてもサスティン・ノートが途切れないシームレスな切り替え（シームレス・トランジション）。
- デュアル・オルガン・モードを搭載し、スプリット幅の調節もできるキーボード・スプリット機能により、スプリット・ポイントでサウンドのスムーズなクロスフェードを設定可能。
- 3 種類のモデル展開：セミ・ウェイテッド・ウォーターフォール鍵盤と物理ドローパーを搭載した Nord Electro 6D 73 および 6D 61、持ち運びやすいよう軽量に設計されたウェイテッド・ハンマー・アクション・ポータブル鍵盤とデジタル LED ドローパーを搭載した Nord Electro 6 HP 73。

NORD ウェブサイトについて

Nord ウェブサイト (<http://www.nordkeyboards.jp/>、nordkeyboards.com (英文)) では、以下をご利用いただけます。

- » Nord Electro 6 やその他の Nord 製品に関する情報
- » 最新 OS バージョンのダウンロード
- » Nord Sound Manager、Nord Sample Editor、各種ドライバーなどのフリー・ソフトウェアのダウンロード

- » Nord Piano Library サウンドの無償ダウンロード
- » Nord Sample Library サウンドの無償ダウンロード
- » Nord に関するニュースや動画を配信する Nord World
- » ユーザー・マニュアルのダウンロード

» nordkeyboards.com/tutorials からチュートリアルを閲覧可能

ぜひ、Facebook、Instagram、Twitter、YouTube で Nord Keyboards をフォローしてください。SNS の投稿には、Nord 公式ハッシュタグ #iseenord をお気軽にご利用ください。

このマニュアルについて

本マニュアルはリファレンス・マニュアルとして使用できるように制作しました。また、実際に各種機能を使用するときの便利なヒントなどもご紹介しています。

PDF 版マニュアル

本マニュアルの PDF 版は、Nord ウェブサイトの Nord Electro 6 セクションから無償でダウンロードできます。

ファクトリー・プリセットに戻す

工場出荷時のプログラム、サンプル、ピアノのデータは Nord Sound Manager のバックアップ・ファイル形式で Nord ウェブサイトからダウンロードできます。また、任意の時点の状態に戻す必要がある場合に備えて、インストールメント全体およびそのインストールメントの工場出荷時の状態をバックアップしたのもをご用意しています。

OS アップグレード

Nord Electro 6 の最新 OS バージョンは、Nord ウェブサイトからいつでもダウンロードできます。Nord ウェブサイトに定期的にアクセスして最新情報をチェックしてください。

フリー・サウンド

Nord Electro 6 では、すべてのピアノやサンプルを入れ替えることができます。入れ替え作業は、Nord ウェブサイトから無償でダウンロードできる Nord Sound Manager アプリケーションを使用して行います。

また、Nord Electro 6 は次々と新たなサウンドが追加されている Nord Piano Library や Nord Sample Library と互換性があります。追加されたサウンドは、随時、Nord ウェブサイトのサウンド・ライブラリー・セクションから無償でダウンロードできます。

商標について

本マニュアルに記載のあらゆる商標やブランド名はそれぞれの所有者が保有する商標であり、Clavia との一切の関係はありません。また、それらの商標やブランド名は本機の機能やサウンドを説明するためにのみ使用しています。

2 概要



オルガン

ピアノ

プログラム サンプル・シンセ

エフェクト

ELECTRO 6 のパネル

Nord Electro 6 は音楽的な想像力を掻きたてつつ、使いやすい楽器となるよう設計されています。ここでは、各パネル・セクションについて簡単にご紹介します。

オルガン・セクション – 10 ページ

Nord Electro 6 のオルガン・セクションには、オルガン・サウンドをリアルタイムに調節できる 9 つのドローバーが搭載され、評価の高い C2D コンボ・オルガンに搭載された最新の B3 トーンホイール・オルガン・モデルが採用されています。

この B3 モデルは、オリジナル B3 に内蔵された 91 枚のトーンホイールからの信号を膨大な時間をかけて解析し、パネル上の設定だけでなく、オリジナル B3 の内部回路でリアルタイムに起きる現象のひとつひとつを再現し、鍵盤高音部でのオクターブ繰り返し、コンプレッション、トーンホイールのエネルギー・ロスなども忠実にシミュレーションします。さらに、Nord C2D に搭載された最新版のロータリー・スピーカー・シミュレーションは、Electro 6 のオルガン・サウンドをさらに迫真のリアル・サウンドに仕上げます。

このセクションには、1960 年代に活躍した 2 大トランジスター・オルガン (Vox および Farf) を忠実に再現したサウンドも用意されています。さらに、「プリンシパル」パイプ・モデルを含む 2 つのパイプ・オルガン・モデルにより、様々な用途に使用できるパイプ/チャーチ・オルガンのサウンドを再現できます。

オルガン・モデルはすべてシングルまたはデュアルの構成で使用でき、各構成には 2 つの異なるサウンドを素早く切り替えるための追加プリセットが用意されています。

ピアノ・セクション – 14 ページ

Nord Electro 6 では、今後も増え続ける Nord Piano Library のサウンドを利用できるほか、グランド・ピアノ、アップライト・ピアノ、エレクトリック・ピアノ、さらにはデジタル・ピアノやレイヤー・サウンドなど、幅広いピアノ・サウンドとキーボード・サウンドがプリセットされています。Nord Piano Library の最新のサウンドは定期的に Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.com) にアップロードされ、無償でダウンロードできます。

ピアノ・セクションのパネル・コントロールには、高度なストリング・レゾナンス機能 (アコースティック・ピアノ用) をオンにしたり、キー

ボード・ベロシティ・レスポンスを調節したり、ピアノやクラビネットのイコライザー設定を使用してサウンド特性を素早く変化させたりするためのボタンがあります。

プログラム・セクション – 16 ページ

Nord Electro 6 のプログラムには、サウンド・エンジンとエフェクトの設定がすべて含まれています。Nord Electro 6 の中央にあるプログラム・セクションでは、プログラムの呼び出しや保存のほか、様々な演奏機能や設定メニューを操作できます。このセクションには大型の有機 EL (OLED) ディスプレイがあり、各種操作やオルガン・ドローバーの設定、選択したピアノ・サウンドやサンプル・サウンドの名前などが表示されます。

サンプル・シンセ・セクション – 19 ページ

Nord Electro 6 を購入すると、Mellotron や Chamberlin などの有名なビンテージ・サウンドを含み、世界有数のサウンドを誇る膨大な無償のライブラリー、Nord Sample Library にアクセスできます。Nord Electro 6 には多くのサンプルがプリセットされています。サンプル・シンセ・セクションでは、これらのサンプルをブラウズしたりロードしたりすることができます。このパネルから、サンプルの特性やレスポンスを調節するための多くの機能に直接アクセスできます。

エフェクト・セクション – 20 ページ

エフェクト・セクションでは、幅広いクラシック・エフェクトを簡単にアサインできます。

エフェクト 1 およびエフェクト 2 ユニットには、伝説的なコンパクト・エフェクターやエフェクト・ユニットをモデルにしたトレモロ、コーラス、フェイザーなどの主要なモジュレーション・エフェクトが用意されています。ディレイ・エフェクトは、微妙なアンビエンスやスラップバック・エフェクト、さらには限りないサウンドスケープまで、あらゆるエフェクトに使用できます。

アンプ/スピーカー・セクションには、クラシックなアンプ・シミュレーション、ロータリー・スピーカー、力強いコンプレッサーなどのエフェクトが用意されています。中心周波数可変タイプのミッド・レンジを備えた多用途なイコライザーは、Nord Electro 6 のあらゆるサウンド・エンジンに適用できます。

そして最後に、豊かなリバーブは、オプションで [BRIGHT] モードも選択でき、狭い部屋や広いホールなど、様々な空間の響きを瞬時にシミュレートできます。

3 使い始める

これから Nord Electro 6 の最も基本的な機能についてご紹介します。このチャプターでは、最も一般的なタスクとシナリオの一部を順を追って説明します。

接続する

- ① 電源コードを本機に接続し、コンセントに接続します。それからサスティン・ペダルやヘッドフォン、またはアンプ、ミキサーなどのオーディオ機器に接続します。
- ② 本機の電源を入れてから、オーディオ機器の電源を入れます。電源を入れるときはそれぞれの機器のボリュームにご注意ください。

接続に関する詳細は、28 ページもご参照ください。

パネル・コントロール

ダイヤルとノブ



Nord Electro 6 では、開始位置と終了位置が固定されていないノブをダイヤルと呼び、パラメーターや設定を切り替えるのに使用します。**[PROGRAM]** ダイヤルもその1つです。このマニュアルでは、ダイヤルをエンコーダーと呼ぶこともあります。



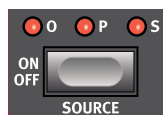
Nord Electro 6 では、多くのパラメーターにボリューム・タイプのノブが使用されています。プログラムをロードしたときにはノブの位置とパラメーターの実際の値が一致していないことが多いですが、ノブを回すと関連付けられたパラメーターの値がノブの位置を瞬時にキャッチしてノブの位置と一致するようになります。

- ✦ **[SHIFT]** ボタンを押しながらノブを回すと、そのパラメーターの設定値を変更することなく現在の設定値を確認できます。

ボタン



セレクター・ボタンは、丸や三角形の LED が付いたいくつかの選択肢から 1 つを選択するパラメーターに使用されます。ボタンを数回押して選択肢を順に切り替えて選択できます。



[ON/OFF] ボタンは、機能のオン/オフやエフェクトのように一連の機能をまとめてオン/オフするときに使用します。オン/オフの状態はボタンの近くにある LED で示されます。また、ソースやゾーンを示す LED もあります。

- ① 図のようなエフェクトのオン/オフ・ボタンにはセレクター機能もあります。一度押すとエフェクトがオンになり、すぐにもう一度押すとソースが切り替わります。

[SHIFT] ボタン

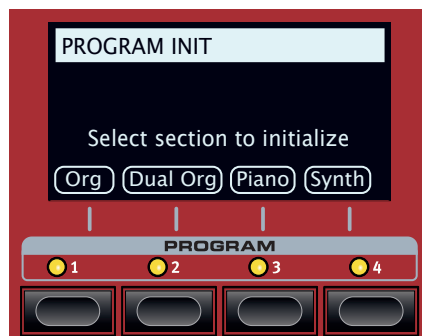


Nord Electro 6 のパネル・コントロールの多くはもう 1 つの機能を備えており、それらの機能は各ボタンのすぐ下にプリントされています。これらの機能を使用するには、**[SHIFT]** ボタンを押しながらそのコントロールを操作します。

[SHIFT] ボタンは、メニューを終了するときや保存操作を途中で中止するときに **[EXIT]** ボタンとしても使用します。

ディスプレイ上のボタン

1 つのメニュー・ページまたは設定ページ、あるいは **[PROGRAM INIT]** ウィンドウ (下図を参照) には、関連する複数のオプションが含まれていることがあります。この場合、ディスプレイ上のボタンを使用して設定または実行するタスクを選択できます。ディスプレイの下部に表示されるこれらのボタンは、**[PROGRAM]** ボタンの **[1]** ~ **[4]** を使用して選択できます。例として、以下の場合に **[PROGRAM 3]** ボタンを押すと、ピアノ・プログラムのパネルが初期化されます。



プログラム

プログラム・エリアはパネル中央にあり、その中央には有機 EL (OLED) ディスプレイがあります。パネル上のすべてのパラメーターを 1 つのプログラムに保存できます。Electro 6 のプログラム・メモリーには 416 個のプログラムをストックしておけます。

プログラムは「A」～「Z」のラベルが付いた 26 個のバンクに分けられており、すべて自由に書き換えたり移動したりできます。

- ① プログラム・メモリーは、工場出荷時のプログラムを使用しているとしても元の状態に戻すことができます。工場出荷時のプログラムはすべて Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.com) からダウンロードできます。

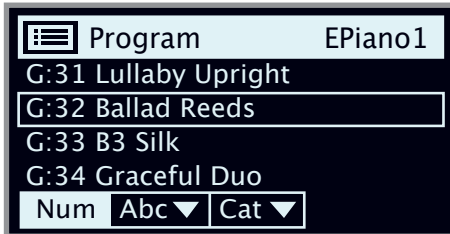
プログラムを選択する

- ① プログラムはディスプレイの下にある 4 つの **[PROGRAM]** ボタンを押して選択できます。**[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタンを押すと、プログラム・ページ (プログラムを 4 個ずつグループ化したページ) が切り替わります。Nord Electro 6 のプログラム・バンクには 16 個 (プログラム・ページ 4 ページ分) のプログラムを登録できます。
- ② プログラムは **[PROGRAM]** ダイヤルを回して切り替えることもできます。

リスト・ビュー

下に [LIST] と書かれた [PROGRAM] ダイアルなどのダイアルでは、便利なりスト・ビューを使用できます。

- [SHIFT] ボタンを押しながら [PROGRAM] ダイアルを回すと、すべてのプログラムのリスト・ビューが表示されます。
- [PROGRAM] ダイアルを使用してプログラムを確認します。リスト・モードでは 26 個すべてのプログラム・バンクにアクセスできます。



- ディスプレイ上の [Abc] ボタンと [Cat] ボタンをそれぞれ試しに押してみてください。Abc モードではすべてのプログラムが名前順にリスト表示され、Cat モードではカテゴリー順にリスト表示されます。
- もう一度 [SHIFT] ボタンを押すとリスト・ビューが終了します。

※ [PIANO] ダイアルと [SAMPLE] ダイアルのリスト・ビューも同じように機能します。

プログラムをエディットする

プログラムのエディットとは、ノブを回したりボタンを押したりして設定値を変更する、とても簡単な操作のことです。ちょっとやってみましょう。

- 最初のプログラム (A : 11、ピアノ・ベースのプログラム) を選択し、これをエディットしてみましょう。

※ ピانو・セクションのパネルはプログラム・エリアの左側にあります。プログラム・エリアのディスプレイのピアノ・セクションには選択したピアノ・サウンドの名前が表示されます。

別のピアノ・サウンドを選ぶ

- [PIANO SELECT] ダイアルを回してピアノ・サウンドを閲覧します。サウンドはピアノのタイプによって分類されています (グラウンドやアップライトなど)。
- [SHIFT] ボタンを押しながら [PIANO SELECT] ダイアルを回すとリスト・ビューが表示されるので、その中からピアノ・サウンドを選択してみましょう。もう一度 [SHIFT] ボタンを押すとリスト・ビューが終了します。

パネルでパラメーターの設定を変更すると、ディスプレイに表示されているプログラム・ナンバーの後ろに「E」が付きます。これは、プログラムがエディット中で、まだ保存されていないことを示しています。保存操作を行う前に別のプログラムをロードすると、それまでのエディット内容は消えてしまい、次に同じプログラムを選択したときにはエディットする前の設定が表示されます。

メモリー・プロテクトをオフにする

Nord Electro 6 はメモリーがプロテクトされた状態で出荷され、工場出荷時のプログラムが誤って上書きされないようになっています。メモリー・プロテクトはシステム・メニューにある設定を切り替えることで、オフにすることができます。

- [SYSTEM] ボタン ([SHIFT] + [PROGRAM 1]) を押します。
- メモリー・プロテクト (「Memory Protect」) はシステム・メニュー

の最初に表示される設定です。ディスプレイに別の設定が表示されている場合は、[PAGE ◀] ボタンを使用して「Memory Protect」を選択します。

- [PROGRAM] ダイアルを回してこの設定をオフに変更します。
 - [EXIT] ([SHIFT]) ボタンを押してシステム・メニューを終了します。
- ❶ この設定は、他のほとんどのシステム設定と同様に、再び変更されるまでは永続的に保存されます。

メニュー設定について詳しくは、26 ページをご参照ください。

プログラムを保存する

- ディスプレイの左にある [STORE] ボタンを 1 回押し、現在のプログラムの保存操作を始めます。
- [STORE] ボタンの LED が点滅し、プログラムの保存先を指定する画面がディスプレイに表示されます。



- エディットしたプログラムを同じプログラム番号に上書き保存する場合は、[STORE] ボタンをもう一度押します。別のプログラム番号に保存する場合は、ダイアルや [PROGRAM] ボタンまたは [PAGE ◀]/[PAGE ▶] ボタンを使用して別の場所を選択します。

※ 選択した場所のプログラムは、上書き保存する前にキーボードで試聴することができます。

- プログラムの保存先を決めたら、[STORE] ボタンをもう一度押しして保存操作を確定します。
- ❶ [STORE] ボタンを押す前に [SHIFT]/[EXIT] ボタンを押すと保存作業を中止します。

保存操作およびプログラムに名前を付ける方法については、16 ページのプログラムのチャプターをご参照ください。

ライブ・モード

他のプログラムとは異なり、8 つのライブ・プログラム (A : 1 ~ 4 と B : 1 ~ 4) に対して行われたエディットは、手動の保存操作を行わなくても自動で保存されます。

- [LIVE MODE] ボタンを押して [PROGRAM] ボタンや [PAGE] ボタンを押すと、8 つのライブ・プログラムを切り替えることができます。
- 選択したプログラムに対して、いずれかのエフェクト・セクションをオンにするなどのエディットを行います。
- 別のライブ・プログラムを選択したあとエディットしたライブ・プログラムに戻ると、エディットが自動的に保存されたことがわかります。

[LIVE MODE] ボタンをもう一度押すと、ライブ・モードを終了し、プログラム・バンクに戻ります。

ライブ・モード・プログラムを通常のプログラムとしてプログラム・バンクに保存する場合は、[STORE] ボタンを押したあとに、[LIVE MODE] ボタンを押す (ライブモードを抜ける) ことで保存できます (前述の説明もご参考ください)。反対に、[LIVE MODE] ボタンを押してライブ・プログラムのいずれかを選択すれば、プログラムを 8 つのライブ・モードのいずれかのメモリーに保存することもできます。

エフェクトをオンにする

- リバーブの **[ON]** ボタンを押してリバーブをオンにします。
 - リバーブ・セレクター・ボタンの上にある **[DRY/WET]** ノブでリバーブの量を調整します。
 - ディレイの **[ON/OFF]** ボタンを1回押してディレイ・エフェクトをオンにします。
 - ボタンの上のLEDは、どのサウンド・エンジンがそのエフェクトにルーティングされているかを示します (**[O]** = オルガン、**[P]** = ピアノ、**[S]** = サンプル・シンセ)。**[P]** LEDが点灯していない場合は、**[P]** LEDが点灯するまで **[SHIFT]** ボタンとディレイの **[SOURCE]** ボタンを押します。
- ※ **[ON/OFF]/[SOURCE]** ボタンをダブルクリックすると、エフェクト・ユニットのソースを素早く切り替えることができます。
- [RATE]**、**[FEEDBACK]**、**[DRY/WET]** のコントロールを使って、ディレイ・エフェクトの特性や強さを変更してみましょう。

ロータリー・スピーカーをオンにする

ロータリー・スピーカーは通常オルガンと一緒に使用されるため、ロータリー・スピーカーのスピード・コントロールはオルガン・セクションの隣にあります。ただし、エフェクト自体は **[SPKR/COMP]** ユニット内にあり、オン/オフの切り替えや割り当ては前述のディレイ・エフェクトと同じように行います。

※ エフェクトがオフのときにロータリー・スピード・コントロールを押すと、ロータリー・スピーカーが自動的にオンになり、現在アクティブになっているサウンド・エンジンのうち、一番左のサウンド・エンジンに割り当てられます。

スプリットを作成する

- ピアノ・セクションがオンになっていることを確認します。
 - スプリット・モードをオンにするには、プログラム・エリアのディスプレイ上方の最上段にある **[KBD SPLIT]** ボタンを押します。
 - スプリット・ポイントの位置を調節するには、**[KBD SPLIT]** ボタンを長押しします。
- ❶ 「▼」記号は、このボタンを長押しすることで機能にアクセスできることを示しています。



- スプリット・ポイントには、位置と幅という2つの設定があります。位置設定がフォーカスされていることを確認し (ディスプレイ上の **[Pos]** ボタンを押す)、ダイヤルを使用してスプリット・ポイントをC4に設定します。

これでキーボードが2つのゾーンに分割されます。スプリット・ポイントは鍵盤上の緑のLEDで表されます。

ピアノをアップパー・ゾーンに割り当てる

- [UP]** LEDだけが点灯するように、**[SHIFT]** ボタンを押しながらピアノの **[ZONE SELECT]** ボタンを押します。

この操作で、ピアノが鍵盤上の高音部 (アップパー・ゾーン) に割り当てられます。ピアノ・セクションの **[OCTAVE SHIFT]** ボタンを押すと、割り当てられる音の範囲が変わります。

サンプル・シンセをロー・ゾーンにセットする

- サンプル・シンセ・セクションを**オン**にします。**[LO]** LEDが点灯するように、**[SHIFT]** ボタンを押しながらサンプル・シンセの **[ZONE SELECT]** ボタンを押します。これでサンプル・シンセが鍵盤上の低音部 (ロー・ゾーン) に割り当てられます。

サンプルをロードする

- [SAMPLE SELECT]** ダイアルを回してサンプル・バンクからサンプルを選択します。試しにベース・サウンドを選択してみてください。ディスプレイの一番下にサンプルの場所と名前が表示されます。

サンプルを選択すると、そのサンプル・シンセのエンベロープ、ダイナミクス、フィルター設定のプリセットもロードされます。これらのパラメーターは必要に応じて手動で調節することもできます。これらのコントロールについて詳しくは、19ページ以降のサンプル・シンセのチャプターをご参照ください。

スプリット・クロスフェード (スプリット幅) を設定する

最後の手順として、スプリットしたサンプル・シンセとピアノのサウンドがなめらかに切り替わるようにスプリット・ポイントを調節しましょう。

- プログラム・エリアのディスプレイ上方の最上段にある **[KBD SPLIT]** ボタンをもう一度押したままにします。
- ディスプレイ上の **[Width]** ボタンを押します。これでスプリット・ポイントのスプリット幅を調節できます。
- ダイヤルを回して幅の値を「ラージ」(Lrg) に設定します。**[KBD SPLIT]** ボタンを放します。

これで、スプリット・ポイントをまたいで演奏すると、低音部と高音部の間に「クロスフェード」がかかるようになります。キーボードの上のスプリットLEDが赤く点灯します。これは、広いスプリット幅が使用されていることを表しています。狭いスプリット幅が使用されている場合はLEDが黄色く点灯し、スプリット幅が「オフ」に設定されている場合はLEDが緑色に点灯します。

二段鍵盤のB3を作成する

オルガン・スプリットを作成し、2つの独立した鍵盤を非常に簡単に設定することができます。オルガン・セクションを正しく構成するプログラム初期化機能を使用して、他のアクティブなサウンド・エンジンをオフにしてみましょう。

- [PROG INIT]** (**[SHIFT]** + **[PROGRAM 3]** ボタン) を押します。ディスプレイに4つの初期化オプションが表示されます。
- ディスプレイ上の **[Dual Org]** ボタン (**[PROGRAM 2]** ボタン) を押します。
- [ORGAN MODEL]** セレクターが **[B3]** に設定されていることを確認し、**[ROTARY]** の **[SLOW/FAST]** コントロールを押すと、ロータリー・スピーカーのエフェクトが自動的にオンになります。

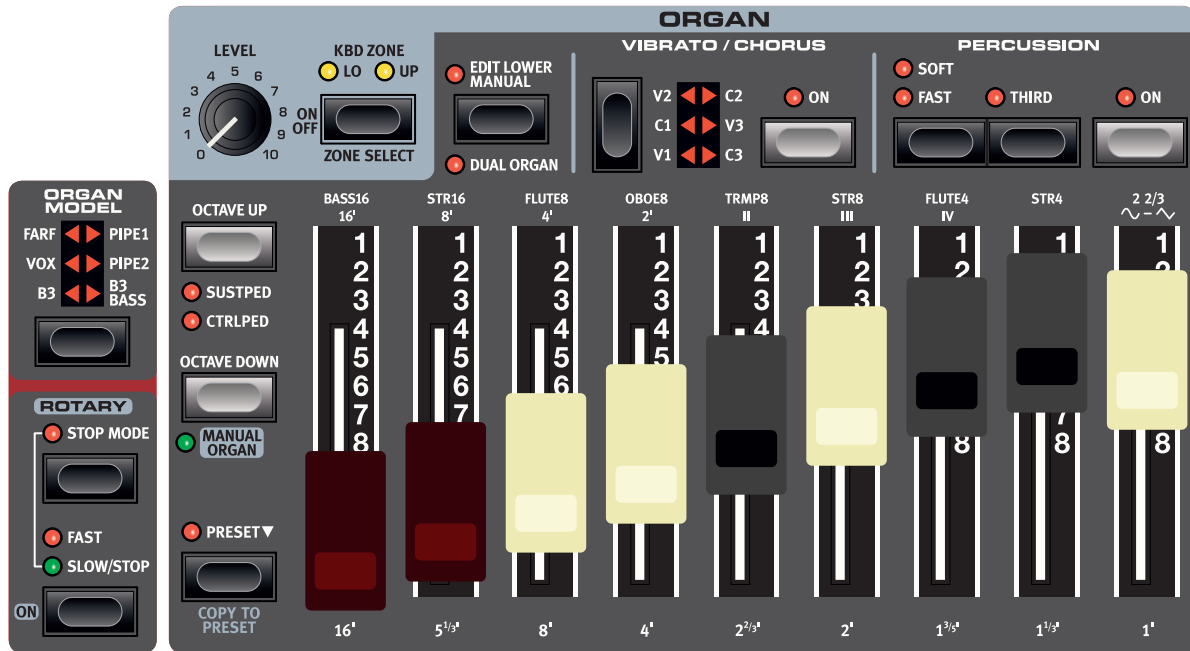
これでキーボード・スプリットが作成され、スプリット・ポイントの左側にオルガン鍵盤が1つ (ロー・鍵盤)、右側にオルガン鍵盤がもう1つ (アップパー・鍵盤) 追加されます。オルガンの **[KB ZONE]** LEDはどちらも黄色に点灯します。これは、キーボード全体でデュアル・オルガンのスプリット構成がアクティブになっていることを表します。

- 必要に応じて、アップパー・鍵盤のドローバー、パーカッションなどのオルガン設定を設定します。

- [EDIT LOWER]** ボタンを押してロー・鍵盤をフォーカスし、ドローバーの編集と調節を行います。ディスプレイには両方の鍵盤のドローバー設定が表示されますが、フォーカスされていない方は「グレー表示」されます。

❶ External KBD to Lo 機能を使用すると、2つの鍵盤のいずれかに外部キーボードを使用する二段鍵盤のB3も簡単に設定できます。詳しくは17ページをご参照ください。

4 オルガン



Nord Electro 6 のオルガン・セクションには、独自の B3 ベース・モードを含むトーンホイール方式の B3 オルガン、トランジスター方式の 2 種類のオルガン、プリンシパルを含む 2 種類のパイプ・オルガン方式のオルガンを忠実に再現した 5 タイプのオルガン・モデルが内蔵されています。

オン/オフの切り替えとレベルおよびゾーンを選択

オルガン・セクションは **[ON/OFF]** ボタンを押してオン/オフを切り替えます。オルガンのボリュームは、**[LEVEL]** ノブでコントロールします。

[ZONE SELECT] ボタン (**[SHIFT]** + **[ON/OFF]**) を押すと、片方または両方のキーボード・ゾーンにオルガンを割り当てることができます。**[KBD ZONE]** LED は、オルガン・セクションが割り当てられているゾーンを表します。

OCTAVE UP/DOWN

[OCTAVE UP/DOWN] ボタンを使用すると、オルガン・セクションを 1 オクターブ上または下 (± 12 半音) にトランスポートできます。オクターブ・シフトをキーボード全体に割り当てると、キーボード全体を 1 オクターブ上または下にトランスポートできます。ゾーンに割り当てられる場合、トランスポートできる値は異なりますが、オルガンの全範囲にいつでもアクセスできます。

- ① **[DUAL ORGAN]** モードでローキーボードに **[OCTAVE UP/DOWN]** を使用するには、**[EDIT LOWER]** モードがオンになっている必要があります。

[SUSTPED] と [CTRLPED]

[SUSTPED] ボタン (**[SHIFT]** + **[OCTAVE UP]**) を押すと、接続したサスティン・ペダルをオルガン・セクションで使用できるようになります。

[CTRLPED] ボタン (**[SHIFT]** + **[OCTAVE UP]**) を押すと、接続したコントロール・ペダルをオルガン・セクションのボリューム・コントロールとして割り当てることができます。B3/B3 ベース・モデルの場合には従来のスウェル・ペダルとして機能し、ロータリー・スピーカー・ドライブを使用している場合はサウンドの特性も変化します。

ペダルの設定方法について詳しくは、26 ページをご参照ください。

ドローバーとドローバー・ボタン

Nord Electro 6 の HP モデルのドローバーには、ボタンと LED バー・グラフを採用しました。Nord Electro 6 の D モデルには物理ドローバーが搭載されています。

プログラムをロードしたときには、物理ドローバーと保存された設定が一致していないことが多いですが、ドローバーを動かすと設定と物理的な位置が一致するようになります。

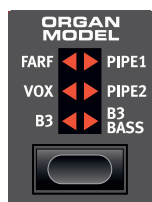
- ① 上記の説明には例外が 1 つあります。マニュアル・オルガンをオンにした状態で保存されたプログラムをロードすると、実際のドローバーの位置が適用されます。

本機のデジタル・ドローバーは物理ドローバーと同じように動作します。B3、B3 ベース、Vox、パイプの各モデルでは、ドローバー・ボタンを使用してドローバーの「引き出し」と「押し込み」を行います。Farf モデルでは、ドローバー・ボタンはレジスターのオンとオフを切り替えるロッカー・スイッチとして動作します。

ドローバー・ボタンは押し続けると自動的に音量が増減するようになっていますので、何度も繰り返しボタンを押す必要がありません。

- ① プログラム・セクションのディスプレイには、オルガン・セクションの現在のドローバー設定が常に表示されます。

オルガン・モデルを選択する



オルガン・モデルの選択は、[ORGAN MODEL] セレクター・ボタンを使用して行います。選択できるモデルは、**B3、VOX、FARF、PIPE1、PIPE2、B3 BASS** です。

B3 Bass に設定すると、非デュアル・オルガン・モードの場合、ドローバーが「アッパー」鍵盤上に配置され、B3 ベースとピアノ/サンプル・シンセのストリットを作成できるようになります。デュアル・オルガン・モードの場合、ベース・ドローバーはローア鍵盤上に配置され、B3 ドローバーの標準セットはアッパー鍵盤上に配置されます。

B3 モデル

B3 モデルはクラシックなエレクトロメカニカル・トーンホイール・オルガンを忠実にデジタル・モデルで再現したものです。オリジナル・サウンドのあらゆるニュアンスを余すところなく忠実に再現できる革新的な技術を採用して実現したこのモデルには、次のような主な特徴もあります。

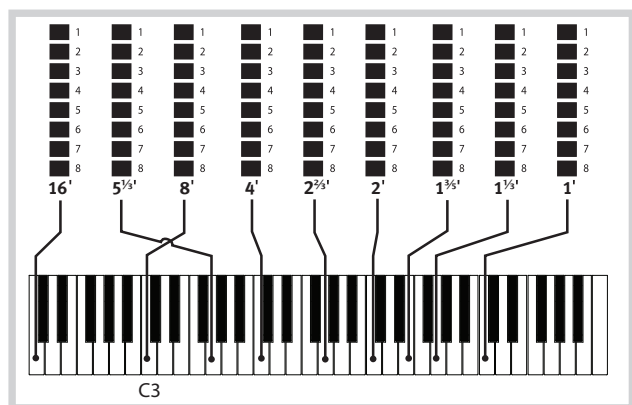
- オリジナルのコーラス、ビブラート・スキャナーを忠実に再現。
- ドローバー内部で不規則に発生するコンタクト・バウンスをモデリング。
- オルガン・サウンドの「ボディ」を構成するオリジナルの内蔵プリアンプのユニークな周波数特性を忠実に再現。
- トーンホイール回路で発生するエネルギー・ロスによるコンプレッション効果のシミュレーション。
- オリジナル同様のトーンホイール・チューニングを採用。
- 驚異的に素早いキーボード・レスポンス。
- 全鍵ポリフォニック。

B3 ドローバー

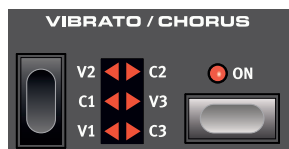
B3 トーンホイール・オルガンの各ドローバーの倍音のインターバルは、ドローバーの下にプリントされています。

ドローバーの基本的な操作法につきましては、前ページの「ドローバーとドローバー・ボタン」をご覧ください。各ドローバーからは打鍵したピッチに対して一定の比率の倍音が発音されます。

下図は C3 を打鍵したときに発音する 9 本のドローバーのピッチ・インターバルを示したものです。5 ½' ドローバーは FUND (ファンダメンタル：基音) (8) の 5 度上のピッチですが、多くの場合、それよりも低いピッチに聴こえます。



ビブラート&コーラス



トーンホイール・オルガンに内蔵されたオリジナルのビブラート&コーラス・スキャナーは、モジュレーションがかかったディレイ・ラインと回転式スキャナーを組み合わせたものでした。ビブラート・エフェクトには、オーディオ信号にフェイズ・シフターが接続されていました。コーラス・エフェクトでは、フェイズ・モジュレーションされた音が原音にミックスされていました。

Nord Electro 6 ではオリジナルと同様、3 種のコーラス (**C1** ~ **C3**) と 3 種のビブラート (**V1** ~ **V3**) を使用できます。[VIBRATO/CHORUS] セレクター・ボタンでこのうちの 1 種を選択できます。

パーカッション



[PERCUSSION] の [ON] ボタンを押すと、B3 サウンドにさらなるアタックを追加できます。パーカッションは 1 基のエンベロープ・ジェネレーターで構成され、2nd または 3rd の倍音を発音します。

鍵盤を弾くと、エンベロープ・ジェネレーターがわずかの瞬間だけ開きます。

パーカッションはシングル・トリガーでノン・レガートのエフェクトなので、他に打鍵している音がない場合のみ発音します。言い換えれば、単音やコードを弾いているときに、それらの音が完全にリリースしない間に別の鍵盤を打鍵 (レガート奏法) しても、その音にはパーカッションはかかりません。このため、すべての音にパーカッションをかけたい場合は、前の音を完全にリリースさせてから次の音を打鍵するノン・レガートで演奏する必要があります。

[SOFT] ボタンはパーカッション・レベルのノーマル/ソフトの切り替えを行います。また、[FAST] ボタンはパーカッションのディケイのスロー/ファストの切り替えを行います。

[THIRD] ボタンはパーカッション・エフェクトのソースとなる倍音を 2nd または 3rd に選択するときを使用します。

- ❶ パーカッション・エフェクトは B3 オルガン・モデルにのみ使用できます。

キー・クリック・コントロール

オリジナルのキー・クリックは鍵盤の接点でランダムに発生するコンタクト・バウンスによるもので、当初は設計ミスと捉えられていました。ところがこの設計ミスによるサウンドがミュージシャンの間で好評となり、今ではオルガン・サウンドに欠かせないファクターの 1 つになっています。キー・クリックのレベルはサウンド・メニューで設定できます。詳しくは 27 ページをご参照ください。

※ B3 モデルには 3 種のトーンホイール・モデルがあり、これらはサウンド・メニューで切り替えることができます。新品同様のクリーンなサウンドから長年使い古したサウンドまで、劇的にサウンドが変化しますのでぜひお試しください。

VOX モデル

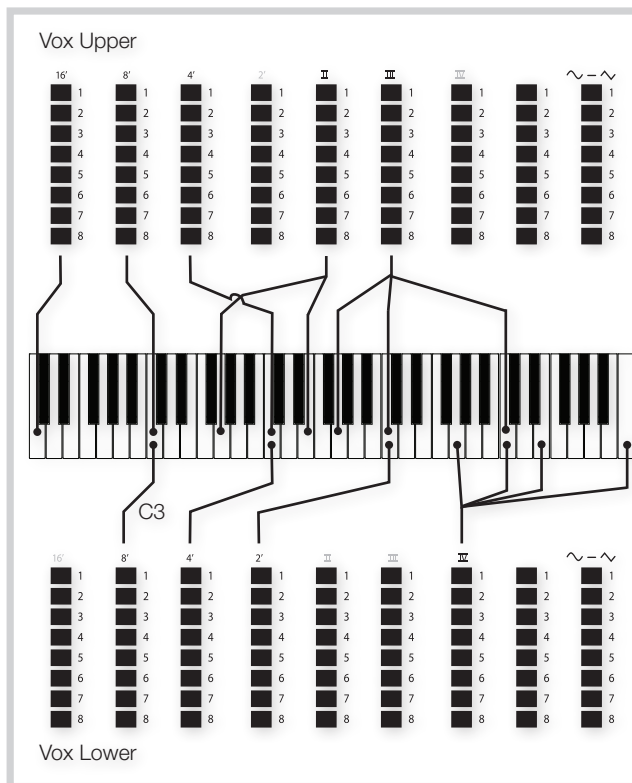
オリジナルの Vox オルガンは 1960 年代初期に出現したすべてのトランジスター式コンボ・オルガンの中で最も有名なオルガンと言えます。トランジスター技術の普及により、オルガンをコンパクトでポータブルな楽器として開発できるようになりました。トーンホイール式オルガンの分厚く力強いサウンドと比べて、トランジスター式オルガンのサウンドは一般的に耳につく線の細いものでしたが、一聴してすぐにそれとわかる特徴的なサウンドと高い可搬性、そしてクールなデザイン（リバーシカラーのキーボードやクローム・フィニッシュの「Z フレーム」スタンドなど）で当時は絶大な人気を誇りました。そのサウンドはやがて時代を超えたクラシックなものとなり、Nord Electro 6 で忠実に再現されました。

VOX ドローバー

Vox モデルの各ドローバーの名称は、ドローバー LED の直上の行にプリントされています。

ドローバーの基本的な操作法につきましては、10 ページの「ドローバーとドローバー・ボタン」をご参照ください。

Vox モデルでは 7 本のドローバーで各倍音の音量をコントロールして音色を作ります。各倍音は打鍵したノートと一定比率のピッチになります。下図は、C3 を打鍵したときの各ドローバーのピッチ・インターバルを示したものです。オリジナルの楽器ではアッパー鍵盤とローワー鍵盤でインターバルが異なっており、Nord Electro 6 ではこれら 2 つの鍵盤のインターバルを組み合わせています。



一番右のドローバーは、フィルターを通したソフトでダークなサウンドと、フィルターを通さないブライで耳につくサウンドのミックスをコントロールします。

ビブラート

Vox モデルにはいくつかのビブラートとコーラスがあり、ビブラート・セクションの [ON] ボタンでオン/オフを切り替えられます。ビブラートの V3 セットアップはオリジナルを忠実に再現したものです。

FARF モデル

Farfisa オルガンは、特徴的なブザーのようなサウンドから、これまで製造されたすべてのオルガンで最もそれとわかるサウンドのピンテーゼ・キーボードですが、実はサウンド・バリエーションが豊富な点もこのオルガンの大きな特徴と言えます。Flute はソフトな音、Oboe は耳につく音、Trumpet はブライで音というように、各音色名はその楽器音をシミュレートしたものではなく、その端的な特徴を楽器名に例えたものです。

FARF レジスター

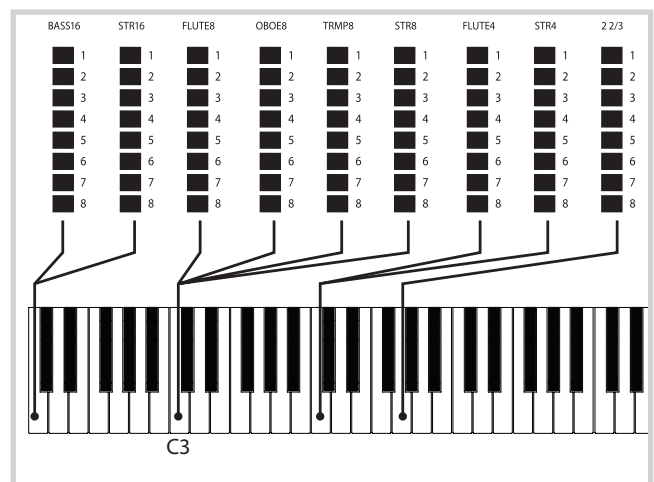
FARF モデルの各ドローバー/レジスター名は、ドローバー LED またはドローバーの上の 1 行目にプリントされています。

Farf モデルではドローバーはオン/オフ・スイッチ、または「レジスター・セレクター」として機能します。オリジナルの Farfisa オルガンでは、ドローバーではなく、インストゥルメント・ボイス（実際には異なるフィルター・セッティング）を選択するためのロッカー・スイッチを使用していました。Electro 6 HP モデルでは、ドローバー LED の 5 ~ 8 でオンになっているボイスを、1 ~ 4 はオフになっているボイスをそれぞれ表示します。Electro 6 D モデルでは、ドローバーを半分以上引き出すと対応するレジスターがオンになります。

また、従来通り、プログラム・セクションのディスプレイにはオルガン・セクションの現在のドローバー設定が表示されます。以下の表はオリジナルのレジスター名をまとめたものです。

| ドローバー | ボイス | パネル上の表記 |
|-------|-------------------------|---------|
| 1 | Bass 16 | BASS16 |
| 2 | Strings 16 | STR16 |
| 3 | Flute 8 | FLUTE8 |
| 4 | Oboe 8 | OBOE8 |
| 5 | Trumpet 8 | TRMP8 |
| 6 | Strings 8 | STR8 |
| 7 | Flute 4 | FLUTE4 |
| 8 | Strings 4 | STR4 |
| 9 | 基音に対してオクターブと 5 度上のブライで音 | 2 2/3 |

下図は、C3 を打鍵したときの各ボイス間のピッチ・インターバルを示したものです。ピッチが同じボイスがありますが、音色のキャラクターはそれぞれ異なります。



ビブラート

オリジナルの Farfisa オルガンのビブラートはそれぞれ周期の異なる「ライト」と「ヘビー」という2種類の基本的なビブラート・モードがありました。Farf モデルでも複数のタイプのビブラート、コーラスを内蔵し、ビブラート・セクションの **[ON]** ボタンでオン/オフを切り替えられます。

V1、V2、V3 セットアップはオリジナルを忠実に再現したものです。

パイプ・オルガン

PIPE1

[PIPE1] オルガン・モデルは既存の楽器を再現するものではなく、便利で魅力的な「多目的」オルガンとして設計されており、ロータリー・スピーカーを使用してもしなくても効果的に使うことができます。音色は B3 オルガンに似ていますが、エレクトロメカニカルな効果やノイズはありません。

PIPE2

[PIPE2] オルガン・モデルはプリンシパル・パイプ・セクションを忠実に再現します。プリンシパル・パイプ・セクションは金属製のパイプを束ねたものでランクとも呼ばれ、パイプ・オルガンまたはチャーチ・オルガンの土台となる部品です。ランクには他の楽器（フルート、トランペット、弦楽器など）のサウンドを再現するものもありますが、プリンシパル・サウンドは他の楽器を模倣するのではなく、パイプ・オルガンに固有のサウンドを表現します。

PIPE1/PIPE2 のコーラス

[PIPE1] または **[PIPE2]** の **[VIBRATO/CHORUS]** をオンにすると、別のバリエーションに切り替わります。このバリエーションはあまり正確にチューニングされていないため、レジスターを組み合わせた場合にコーラスのような効果が生まれ、わずかに不協和音が生じてより本物らしく聴こえます。

PIPE1/PIPE2 のレジスター

[PIPE1]、**[PIPE2]** のパイプ・モデルのパイプの長さは、B3 モデルと同じ 16 フィートから 1 フィートまでです。

プリセット



オルガンの各鍵盤には、デフォルトのドローバー・セット（**[PRESET]** LED は点灯しない）とプリセットという2つのドローバー・セットが用意されています。これにより、オルガン・サウンドの2つのバリエーションを、プログラムを変更することなく素早く切り替えることができます。

2つのドローバー設定を切り替えるには、**[PRESET]** ボタンを押します。**[PRESET]** LED が点灯している場合は、プリセットがオンになっていることを表します。

プリセットを変更するには、「▼」記号で示されたボタンを押しながらドローバーおよびその他の設定を調節します。

プリセット・モードでない場合、**[COPY TO PRESET]**（**[SHIFT]** + **[PRESET]**）を押すとドローバーの現在の位置をプリセットに保存できます。

マニュアル・オルガン



[MANUAL ORGAN]（**[SHIFT]** + **[OCTAVE DOWN]**）は、プログラムに依存しない個別のオルガンと考えることができます。マニュアル・オルガンの設定は、ロードしたプログラムに関係なく常に同期されます。また、マニュアル・オルガンがオンの場合やマニュアル・オルガンをプログラムからロードした場合は、ドローバーの実際の位置が常に使用されます。

音 マニュアル・オルガンと External KBD to Lo 機能（17 ページを参照）を使用すると、個別のキーボードを使用してオルガンをプログラムごとにコントロールできます。この場合、ロードしたプログラムに関係なく、ドローバーの現在の位置が常に使用され、その他のすべてのオルガン設定はそのまま維持されます。

デュアル・オルガン



[DUAL ORGAN]（**[SHIFT]** + **[EDIT LOWER MANUAL]**）ボタンを押すと、キーボードを2つのゾーンに分割するキーボード・スプリットを使用して、二段鍵盤のオルガン設定を簡単に作成できます。ロー（**LO**）鍵盤はスプリット・ポイントの左側に、アッパー（**UP**）鍵盤は右側に作成されます。

キーボード・スプリットの位置を調節するには、プログラム・エリアの **[KBD SPLIT]** ボタンを押しながらダイヤルを回します。詳しくは、16 ページをご参照ください。

ローキーボードを編集する

[EDIT LOWER MANUAL] ボタンを押すと、ローキーボードをフォーカスしてドローバーを編集できます。アッパー鍵盤に戻るには、ボタンをもう一度押します。デュアル・オルガン・モードの場合、ディスプレイにはドローバーの設定が表示されますが、フォーカスされていない方が「グレー表示」されるため、現在どちらの鍵盤がフォーカスされているかがわかります。以下の例は、B3 ベース・モードでスプリットされたデュアル・オルガンとして設定されたライブ・プログラムです。アッパー鍵盤が編集用にフォーカスされています。

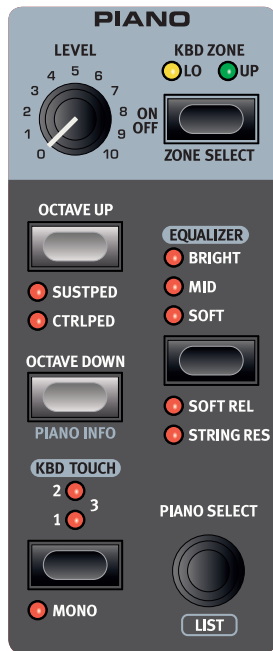


❶ **[EDIT LOWER MANUAL]** コントロールは、デュアル・オルガン・モードでのみ利用できます。

ロータリー・スピーカー

ロータリー・スピーカーのコントロールはオルガン・セクションのすぐ隣にあります。この設定については、21 ページのエフェクトのチャプターで詳しく説明します。

5 ピアノ



オン/オフの切り替えとレベルおよびゾーンを選択

ピアノ・セクションは[ON/OFF]ボタンを押してオン/オフを切り替えます。ピアノ・サウンドのボリュームは、[LEVEL]ノブでコントロールします。

[ZONE SELECT]ボタン([SHIFT] + [ON/OFF])を押すと、片方または両方のキーボード・ゾーンにピアノを割り当てることができます。[KBD ZONE] LEDは、ピアノ・セクションが割り当てられているゾーンを表します。スプリットの設定について詳しくは、16ページをご参照ください。

OCTAVE UP/DOWN

[OCTAVE UP/DOWN]ボタンを使用すると、ピアノ・セクションを1オクターブ上または下(±12半音)にトランスポートできます。オクターブ・シフトをキーボード全体に割り当てると、キーボード全体を1オクターブ上または下にトランスポートできます。1つのゾーンだけに割り当てると、トランスポートできる値は異なりますが、ピアノの全範囲にいつでもアクセスできます。

[SUSTPED]と[CTRLPED]

[SUSTPED]ボタン([SHIFT] + [OCTAVE UP])を押すと、接続したサステイン・ペダルをピアノ・セクションで使用できるようになります。接続したペダルの設定方法について詳しくは、26ページのメニューのチャプターをご参照ください。

[CTRLPED]ボタン([SHIFT] + [OCTAVE UP])を押すと、接続したコントロール・ペダルをピアノ・セクションのボリューム・コントロールとして割り当てることができます。

サステイン・ペダルとコントロール・ペダルは同時にオンにすることができ、その場合は両方のLEDが点灯します。

ピアノ・サウンドについて

Nord Electro 6のピアノには6種類のカテゴリーがあり、各カテゴリーにはさらにいくつかのインストゥルメント・モデルがあります。無償のアプリ

ケーションNord Sound Managerを使用すると、Nordウェブサイト(www.nordkeyboards.com)から新たなピアノ・サウンドをダウンロードしてNord Electro 6に追加できます。

工場出荷時の状態では、厳選されたアコースティック・ピアノ、エレクトリック・ピアノ、デジタル・ピアノなどの高品位サウンドとピアノ・レイヤーが内蔵されています。これらのサウンドとピアノ・レイヤーは、サウンドやレスポンスのニュアンスができる限りオリジナルの楽器に近づくよう、膨大な手間をかけて作成されました。

ピアノ・サウンドに使用できるメモリー・サイズは1GBです。

- ① Nord Sound Manager を使用してピアノ・インストゥルメントを本機へダウンロードすると、そのインストゥルメントのカテゴリーに応じたメモリー・ロケーションに自動的に保存されます。

ピアノ・インストゥルメントを使用するプログラムには、そのピアノ・インストゥルメントのカテゴリーやモデル・ナンバーを識別するデータが入っています。そのため、Nord Electro 6にダウンロードされていないピアノを必要とするプログラムを選択すると、ディスプレイに「Piano not found」と表示されます。このような場合、同じカテゴリーまたは別のカテゴリーの別のモデルを選び直すか、([PIANO SELECT]ダイアルを使用)、Nord Sound Managerを使用して必要なインストゥルメントを本機にダウンロードしてください。

ピアノ・サイズについて

Nord Piano Libraryのサウンドには、最大で4種類のサイズがあります。以下の表は、各サイズの機能の違いをまとめたものです。

| | Sml | Med | Lrg | XL |
|-----------------|-----|-----|-----|----|
| ステレオ・サンプリング | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
| 詳細なベロシティ・マッピング | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
| 中音域のストリング・レゾナンス | | ✓ | | |
| 全音域のストリング・レゾナンス | | | ✓ | ✓ |
| 鍵盤全体にマッピング | | | | ✓ |

スモール(Sml)のピアノ・ファイルにはストリング・レゾナンスが収録されていないため、使用するピアノ・メモリーの容量が最も小さくなります。

ミディアム(Med)には、演奏上重要な位置を占める中音域のストリング・レゾナンスが収録されています。

ラージ(Lrg)には、すべての音域でストリング・レゾナンスが収録されています。

また、エクストラ・ラージ(XL)バージョンを利用できるピアノも数多くあります。XLバージョンではサウンドが鍵盤全体にマッピングされるため、Nordの各キーがオリジナル楽器の鍵盤に正確に対応します。そのため、サイズは当然大幅に増加します。

ピアノ・セレクト

カテゴリーとモデル

使用するピアノ・サウンドは[PIANO SELECT]ダイアルで選択できます。ピアノ・サウンドは全部で6つのカテゴリーに分類されます。

| カテゴリー | 内容 |
|----------|-------------------------|
| Grand | アコースティック&エレクック・グランド・ピアノ |
| Upright | アップライト・ピアノ |
| Electric | エレクック・ピアノ |
| Clav/Hps | クラビネットとハーブシコード |
| Digital | デジタル・ピアノ・サウンド |
| Layer | レイヤード・ピアノ・サウンド |

- ❶ 設定したピアノ・カテゴリーを別のピアノ・カテゴリーに変更することはできません。

選択したモデルの名前は、プログラム・セクションのディスプレイの一番下にある鍵盤アイコンの隣に表示されます。

クラビネットについて

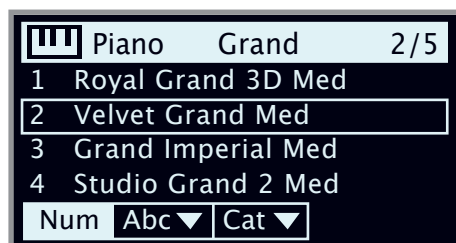
オリジナルのClavinet D6では、ロッカー・スイッチでピックアップの組み合わせを選択できました。Nord Electro 6でもこの機能は忠実に再現され、オリジナルのClavinet D6のピックアップはすべて選択できます。

ピックアップ・タイプ

Clav Model A:「ネック」側のピックアップを使用したソフトなサウンド。
Clav Model B:「ブリッジ」側のピックアップを使用したブライトなサウンド。
Clav Model C:両方のピックアップを同位相で出力したパワフル・サウンド。
Clav Model D:両方のピックアップを使用し、位相を反転させ、低音成分がほとんど打ち消された線の細いサウンド。

リスト・ビュー

[SHIFT] ボタンを押しながら[PIANO SELECT]ダイアルを回すと、ピアノ・サウンドのリスト・ビューがオンになります。



リストでは現在選択しているモデルに四角い枠が表示され、前後のモデルも確認できます。

ピアノ・リストの一番上の行には、現在選択しているモデルのカテゴリー名（ここでは「Grand」）、そのタイプのモデル数（5）、そのモデルのインデックス（2）が表示されます。デフォルトでは番号順に並んでいますが、ピアノはディスプレイ上の[Abc]ボタンまたは[Cat]ボタンを押すことで、それぞれアルファベット順またはカテゴリー別に表示することもできます。

KBD TOUCH



Nord Piano Libraryのピアノには非常に幅広いダイナミクス・レンジが収録されており、お好みのスタイルや演奏の流れに合わせてダイナミクス・レスポンスを調節できます。

デフォルト設定では、[KBD TOUCH]のLEDはすべてオフとなっており、柔らかく表情豊かな演奏ができるように設定されています。[KBD TOUCH]の設定を増やすと（1, 2, 3）、大きな音で演奏しやすくなります。

ピアノ・インフォ

[PIANO INFO]ボタン（[SHIFT] + [OCTAVE DOWN]）を押すと、バージョン・ナンバーや正確なサイズなど、現在選択しているモデルに関する詳細な情報が表示されます。

モノ

[MONO]モード（[SHIFT] + [KBD TOUCH]）では、ステレオでサンプリングされたすべてのピアノがモノラルで再生されます。Nordのピアノ・サウンドのモノ・バージョンは、モノラルでも最適なサウンドを再現できるように特別に設計されています。

ストリング・レゾナンスとソフト・リリース

ストリング・レゾナンス

ストリング・レゾナンスとは、すべての弦または一部の弦が、演奏中の弦の基音や倍音に共鳴する音響現象のことです。

[STRING RES]をオンにすると、グランド・ピアノやアップライト・ピアノの内部で起きている豊かで素晴らしい音響現象がすべての音域で再現されます。

また、サスティン・ペダルを踏み、すべてのダンパーが弦から離れることで、レゾナンス・エフェクトがさらに増大します。

ストリング・レゾナンス・エフェクトのサウンド・レベルは、サウンド・メニューで設定できます（27 ページを参照）。

- ❶ ストリング・レゾナンス機能をサポートしていないピアノを選択した場合、この機能は使用できません。例えば、スモール（Sml）バージョンのグランド・ピアノ、アップライト・ピアノ、エレクック・ピアノ、デジタル・ピアノ、レイヤー・ピアノはこの機能をサポートしていません。

ソフト・リリース

[SOFT RELEASE] をオンにすると、ピアノ・サウンドのリリースがわずかに長く、不明瞭になります。これは、アコースティックやエレクック・ピアノのダンパー・テンションを調整するのと同じ効果となります。また、リリースのかけり具合はノートごとにタッチの強弱に反応するようになっています。

- ❶ クラビネットやハーブシコードなどの一部のピアノ・タイプはソフト・リリース機能に対応していません。対応していないピアノ・タイプを選択すると、[SOFT RELEASE] ボタンが無効になります。

イコライザー

PIANO EQ設定



[EQUALIZER]を使用すると、選択されているピアノ・サウンドの周波数成分と特性を瞬時に切り替えることができます。

[SOFT]に設定すると、主に高周波数レンジが除去されるため、低周波数部分が強調されて落ち着いたメロウなサウンドになります。

[MID]モードに設定すると、高周波数レンジと低周波数レンジの両方が抑えられ、ミッド・レンジが強調された鋭いサウンドになります。

[BRIGHT]モードに設定すると、高周波数レンジが強調されて明るく澄んだサウンドになります。このモードはエレクック・ピアノの「ピーン」という音を再現するのに便利です。

CLAV EQ設定

オリジナルのクラビネットでは、ピックアップ・セレクター以外に4つのロッカー・スイッチがあり、内蔵EQをコントロールできました。これらの設定の組み合わせのほとんどをNord Electro 6でも使用できます。[EQUALIZER]ボタンを使用すると、フィルター設定の組み合わせを自由に選択できます。

6 プログラム



プログラム・セクションでは、プログラムの保存やロードなどの演奏機能、ライブ・プログラム、キーボード・スプリット機能などを使用できます。さらに、システムやサウンドなどの設定メニューにもアクセスできます。各メニューとその設定については、26 ページ以降のチャプターで詳しく説明します。

保存する



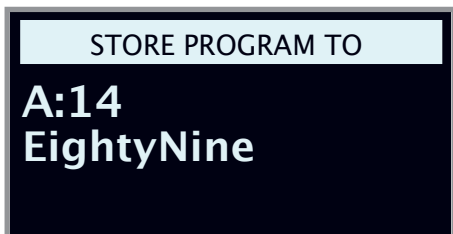
[STORE] ボタンを使用すると、エディットしたプログラムをプログラム・バンク内の任意の場所に保存できます。選択した場所にプログラムが存在する場合、既存のデータは上書きされます。

- ① プログラムが誤って上書きされないよう、Nord Electro 6 の工場出荷時にはメモリーがプロテクトされています。プログラムを保存できるようにするには、システム・メニューで [Memory Protect] パラメーターを「Off」に設定する必要があります。詳しくは 26 ページをご参照ください。

プログラムを保存する

名前を変更せずにプログラムを保存する手順は以下のとおりです。

- ① **[STORE]** ボタンを 1 回押します。すると、[STORE] LED が点滅し始め、プログラムの名前と場所がディスプレイに表示されます。



- ② 別の保存場所を選択するには、ダイヤルと **[PROGRAM]** ボタンの **[1]** ~ **[4]**、および **[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタンを使用します。また、**[LIVE MODE]** ボタンを押して希望するライブ・プログラムを選択すると、いずれかのライブ・プログラムの場所にプログラムを保存することもできます。選択した保存場所にあるプログラムは、キーボードを弾いていつでも確認できます。
- ③ 保存操作を途中で中止するには **[EXIT]** ボタンを押します。
- ③ 適切な保存場所を選択したら、もう一度 **[STORE]** ボタンを押して操作を確定します。

プログラムに名前を付ける ([STORE AS...])

- ① プログラムに名前を付けて保存するには、**[STORE AS...]** ボタン (**[SHIFT]** + **[STORE]**) を押します。
- ② ディスプレイ上の **[ABC]** ボタンを押すと、アルファベットの列が表示されます。ダイヤルを使用して現在の位置の文字を選択します。ディスプレイ上の **[ABC]** ボタンを放すとカーソルが次に移動します。ダイヤルと **[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタンを使用してカーソルを自由に動かすことができます。ディスプレイ上の **[Ins]** ボタンを押すとカーソルの位置にスペースが挿入され、**[Del]** ボタンを押すと選択している文字が削除されます。



- ③ プログラムにカテゴリーを割り当てるには、ディスプレイ上の **[Cat]** ボタンを押したままダイヤルを使用して、リスト内の 20 個のカテゴリーのいずれかを選択します。
 - ④ **[STORE]** ボタンを押すと、[STORE PROGRAM TO] 画面が表示されます。ダイヤル、**[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタン、**[PROGRAM]** ボタンを使用して場所を選択します。
 - ⑤ 適切な保存場所を選択したら、もう一度 **[STORE]** ボタンを押します。
- ※ プログラムの名前は、Nord Sound Manager を使用して付けることもできます。

KBD スプリット



Nord Electro 6 のキーボードは、スプリット・ポイントを使用して **LO** (ロー) と **UP** (アッパー) という 2 つのゾーンに分割できます。片方または両方のゾーンにサウンド・エンジン (オルガン、ピアノ、またはサンプル・シンセ) を割り当てることができます。

[KBD SPLIT] ボタンを 1 回押すと、スプリットのオンとオフが切り替わります。スプリットをオンにしたあと、各楽器セクションの **[ZONE SELECT]** ボタン (**[SHIFT]** + **[KBD ZONE]**) を使用して、1 つまたは両方のゾーンにサウンド・エンジンを割り当てることができます。**[ZONE SELECT]** ボタンの上にある **[LO]** と **[UP]** のゾーン LED は、現在の割り当てを表しています。

キーボード・スプリットの設定

「▼」記号で示されるように **[KBD SPLIT]** ボタンを長押しすると、キーボード・スプリットの設定ページがディスプレイに表示されます。

スプリット・ポジションを選択する

キーボード・スプリットのポジション・ページで、ダイヤルを使用して、6つのキーボード・スプリット・ポジション (C3～F5) のいずれかを選択します。キーボードの上にはLEDが付いており、どのスプリット・ポジションがオンになっているかが表示されます。

スプリット幅の設定

通常、2つのキーボード・ゾーン間のトランジションは即時適用され、各ゾーンに対して選択されたサウンド同士はオーバーラップしません。スプリット幅を設定することで、サウンド同士をミックスしたり、スプリット・ポイント上でクロスフェードをかけたりしてサウンドがスムーズに切り替わるようになります。

スプリット幅を調節するには、パネル上の **[KBD SPRT]** ボタンを押したまま、ディスプレイ上の **[Width]** ボタン (パネル上の **[PROGRAM 2]** ボタン) を押します。ダイヤルを回して3種類の設定を選択できます。



Off : [Off] に設定するとサウンド間にクロスフェードがかかりません。

Sml : [Sml] に設定するとスプリット幅が12半音分になります。スプリット・ポイントより下のサウンドは、スプリット・ポイントの6音上まで影響し (フェード・アウトがかかり)、同様に、スプリット・ポイントより上のサウンドは、6音下のサウンドまで影響します。

Lrg : [Lrg] に設定するとスプリット幅が24半音分になり、スプリット・ポイントの上下12音にクロスフェードがかかります。

EXTERNAL KBD TO LO

EXTERNAL KBD TO LO 機能を使用すると、MIDI インプットに接続された外部キーボードから Nord Electro 6 サウンド・エンジンの演奏とコントロールを行えます。この機能を使用すると、1つのプログラムで2台のキーボードを使用し、2台目を Nord Electro 6 のパートのコントローラーとして使用できるため、ライブ演奏の際に便利です。

- ① サウンド・エンジンが External KBD to Lo モードになっている場合、[KB ZONE] LED は赤く点灯します。これは、サウンド・エンジンが内部キーボードでコントロールされていないことを表します。

External KBD to Lo モードの場合、**UP** キーボードゾーンは、Nord Electro 6 キーボード全体に対応します。

外部からコントロールされているサウンド・エンジンのパラメーター・コントロールはすべて、Nord Electro 6 からアクセスできるので、オルガン・ドローバー設定やピアノ設定などをいつも通り調節することができます。External KBD to Lo の設定は、他のすべてのパネル設定とともにプログラムに保存されます。

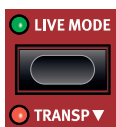
- ① 外部キーボード機能の MIDI チャンネルは、システム・メニューで設定します。詳しくは27ページをご参照ください。

[SHIFT]/[EXIT] ボタン



多くのコントロールにはもう1つの機能があり、**[SHIFT]** ボタンを押しながらボタンを押すかダイヤルを回すとその機能を使用できます。**[SHIFT]** ボタンで使用できる機能の名前は、各コントロールの下にプリントされています。例えば、**[SHIFT]** ボタンを押しながら **[PROGRAM 2]** ボタンを押すと、サウンド・メニューが開きます。**[SHIFT]** ボタンは、メニューを終了するときや、保存操作を途中で中止するときにも使用します。

ライブ・プログラム



Nord Electro 6 には簡単にアクセスできる8つのライブ・プログラムがあります。他のプログラムとは異なり、ライブ・プログラムへのエディットは自動的に保存されます。ライブ・プログラムを終了するか本機の電源を切ると、手動で保存操作を行わなくてもすべてのエディットが保存されます。ライブ・プログラムを選択するには、**[LIVE MODE]** ボタンを押したあと、プログラム・エリアの [1]～[4] のいずれかのボタンを押します。2つのライブ・ページを切り替えるには、**[PAGE]** ボタンを使用します。

ライブ・プログラムは、通常の操作でプログラム・バンク内に保存できます。反対に、通常のプログラムをライブ・プログラムとして保存することもできます。

トランスポーズ・オン/セット

Nord Electro 6 では、プログラムごとに半音単位で±6半音までトランスポーズできます。**[TRANSP]** ボタン (**[SHIFT]** + **[LIVE MODE]**) を押しながらダイヤルを回して値を設定します。**[TRANSP]** ボタンを押すと、トランスポーズのオン/オフを切り替えることができます。トランスポーズ設定は、プログラムの一部として保存して呼び出すことができます。

※ すべてのプログラムに影響するトランスポーズを設定するには、システム・メニューでトランスポーズ・パラメーターを使用します。

プログラム・ボタン

[PROGRAM] ボタンの **[1]**～**[4]** を使用して現在のプログラム・バンク内の4つのプログラム (ページ) を瞬時に選ぶことができます。これらのボタンは、メニュー設定を操作する際にはディスプレイ上のボタンとしても機能します。ディスプレイ上のボタンの機能については詳しくは、7ページをご参照ください。

プログラムとは?

プログラムには、選択したピアノ・サウンドやサンプル・サウンドへの参照情報に加え、パネルで行ったすべての設定 (マスター・レベルを除く) が含まれます。システム・メニューまたはサウンド・メニューで行った設定はプログラムには含まれません。

システム・メニューとサウンド・メニュー

[SYSTEM] ボタン (**[SHIFT]** + **[PROGRAM 1]**) または **[SOUND]** ボタン (**[SHIFT]** + **[PROGRAM 2]**) を押すと、システム・メニューまたはサウンド・メニューが開きます。さらに、システム・メニューからすべての MIDI 設定にアクセスできます。利用できるすべてのメニュー設定については、26ページをご参照ください。

プログラム・イニシャライズ

[PROG INIT] (**[SHIFT]** + **[PROGRAM 3]** ボタン) 機能を使用すると、パネルを4つの基本構成のいずれかに素早く初期化できます。

Org/Piano/Synth : 選択したサウンド・エンジンをオンにし、すべてのエフェクトのソースとして設定します。他のサウンド・エンジンはオフになります。

Dual Org (オルガン・スプリット) : オルガン・セクションと KBD スプリットをオンにし、デュアル・オルガン機能を有効にします。また、すべてのエフェクトのソースを **[O]** (オルガン) に設定します。他のソース・エンジンはすべてオフになります。

[PROGRAM] ダイヤル

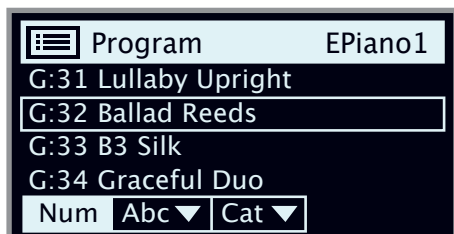


ディスプレイの右にある **[PROGRAM]** ダイヤルは、プログラムの選択、パラメーター値の設定、プログラム名の文字入力に使用します。**[SHIFT]** ボタンを押しながらダイヤルを回すと **リスト** 機能がオンになり、すべてのプログラムがリスト表示されます。

プログラムリストの [ABC] と [CAT]

プログラムをブラウズする際、**[LIST]** ([SHIFT] + [PROGRAM] ダイアル) ビューにはプログラムの概要が番号順に表示されますが (ディスプレイ上で **[Num]** が選択されている場合)、その他にも 2 種類のソート・モードがあります。それが **[Abc]** ([PROGRAM 2]) と **[Cat]** ([PROGRAM 3]) です。

[Abc] モードではリストがアルファベット順に表示され、[Cat] モードでは選択したカテゴリーのすべてのプログラムが表示されます。特定の文字またはカテゴリーを選択するには、「(▼)」記号で示されるように) ディスプレイ上の **[Abc]** または **[Cat]** ボタンを押したままダイヤルを回します。



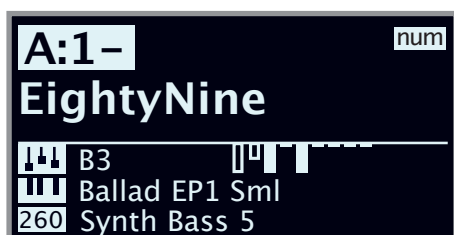
- ① リストのソート・モードは、ディスプレイ上の [Num] をもう一度押すまで維持されます。

数字パッドによるナビゲーション・モード

プログラムとバンクの切り替えは、デフォルトの「ページ・ベース」モードと数字パッド・モードという 2 種類のモードで行えます。使用するモードはシステム・メニューで設定します (26 ページを参照)。

数字パッド・モードでは、4 つのプログラムをページ上で直接切り替えるのではなく、[PROGRAM] ボタンの [1] ~ [4] を使用して現在のバンク内のプログラム番号 (11 ~ 44) を入力します。例として、現在のバンク内のプログラム 12 を選択するには、まず [PROGRAM 1] ボタンを押し (ページ 1 が選択される)、次に [PROGRAM 2] ボタンを押します (そのページ内のプログラム 2 が選択される)。また、以下の点にも注意してください。

- 数字パッド・モードでは、**[PAGE]** ボタンでバンクを切り替えます。
- ページ・ベース・モードと同様、[PROGRAM] ダイアルを回すとプログラムが順次切り替わります。
- ディスプレイの右上に表示される「num」記号は、数字パッド・モードがオンになっていることを示しています。



上の図は、[PROGRAM 1] ボタンを押した場合の例です。ダッシュ (-) は、次の桁を入力してプログラム 11 ~ 14 を選択できることを表しています。

MIDI LED インジケーター

MIDI MIDI LED はプログラム・セクションの右上にあり、MIDI イン・ポートまたは USB を介して MIDI メッセージを受信すると点滅します。

ページ・ボタン



プログラム・ページ (数字パッド・モードの場合はバンク) は、**[PAGE ◀]** または **[PAGE ▶]** ボタンで切り替えます。各バンク (A ~ Z) は 4 ページあり、各ページには 4 個のプログラムがあります。これらのボタンはメニュー設定の切り替えや、リストをブラウズする際のカテゴリー / 文字の選択 ([Abc] モードまたは [Cat] モードの場合) にも使用できます。

並べ替え

[ORGANIZE] ([SHIFT] + [PROGRAM 4]) ビューを使用すると、プログラム・バンク内でプログラムを移動したり「スワップ」したりできます。この操作は、**[Prog]** ビューがフォーカスされている場合はプログラムごと、**[Page]** ビューが選択されている場合はページごと (4 つのプログラムを一度に操作) に行われます。

ページ操作では、同じソング内で使用されているプログラムのグループを、あとから特定の順序で並べることができるので、セット・リストなどを準備する際に特に便利です。

[ORGANIZE] ビューを開く

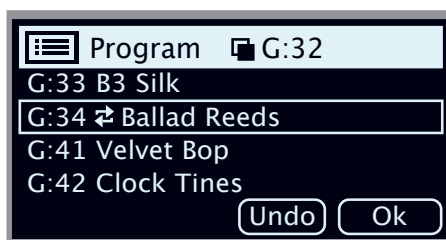
- ① **[ORGANIZE]** ボタン ([SHIFT] + [PROGRAM 4]) を押したあと、実行する操作に応じて **[Prog]** ([PROGRAM 1]) または **[Page]** ([PROGRAM 2]) を押します。



プログラムまたはページをスワップする

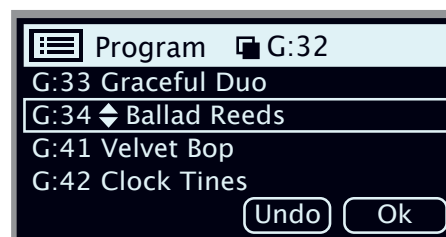
スワップ操作を行うと、2 つのプログラムまたはページの位置が入れ替わります。

- ② ダイアルを使用して、別のプログラムまたはページとスワップする必要のあるプログラムまたはページを選択し、**[Swap]** を押しします。
 - ① [Page] ビューでは、プログラム範囲 ([G:31 ~ 34]) が表示されますが、名前が表示されるのは各ページの最初のプログラムだけです。
- ③ ダイアルを使用してスワップ先を選択し、**[Ok]** を押すとスワップ操作が完了します。**[Undo]** を押すと操作が中止されます。



プログラムまたはページを移動する

- ④ ダイアルを使用して、別の場所に移動する必要のあるプログラムまたはページを選択し、**[Move]** を押しします。
- ⑤ ダイアルを使用して移動先を選択し、**[Ok]** を押しします。**[Undo]** を押すと操作が中止されます。



- ⚠ 移動元と移動先の間のプログラムは 1 つ上または 1 つ下に移動し、影響を受ける範囲内のページに表示されるプログラムも変化します。
- ① プログラムは、Nord Sound Manager を使用して並べ替えることもできます。

7 サンプル・シンセ



オン/オフの切り替えとレベルおよびゾーンを選択

サンプル・シンセ・セクションは[ON/OFF]ボタンを押してオン/オフを切り替えます。サンプル・シンセ・セクションのボリュームは、[LEVEL]ダイヤルでコントロールします。[ZONE SELECT]ボタン ([SHIFT] + [ON/OFF]) を押すと、アクティブなキーボード・ゾーンにサンプル・シンセを割り当てることができます。[KBD ZONE] LEDは、サンプル・シンセが割り当てられているゾーンを表します。詳しくは16ページをご参照ください。

OCTAVE UP/DOWN

[OCTAVE UP/DOWN]ボタンを使用すると、シンセ・セクションを1オクターブ上または下(±12半音)にトランスポーズできます。オクターブ・シフトをキーボード全体に割り当てると、キーボード全体を1オクターブ上または下にトランスポーズできます。1つのゾーンだけに割り当てられる場合、トランスポーズできる値は異なりますが、シンセサイザーの全範囲にいつでもアクセスできます。

[SUSTPED]と[CTRLPED]

[SUSTPED]ボタン ([SHIFT] + [OCTAVE UP]) を押すと、接続したサステイン・ペダルをシンセ・セクションで使用できるようになります。

[CTRLPED] ボタン ([SHIFT] + [OCTAVE UP]) を押すと、接続したコントロール・ペダルをシンセ・セクションのボリューム・コントロールとして割り当てることができます。

接続したペダルの設定方法について詳しくは、26ページをご参照ください。

サンプル・シンセについて

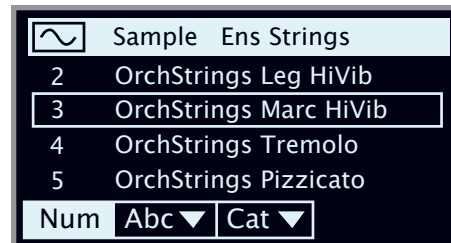
多用途なサンプル・シンセ・セクションには最大512MBのサンプルを保存できるほか、すぐに使用できるサンプルが多数搭載されています。また、Nordウェブサイト (www.nordkeyboards.com) のNord Sample Libraryには数多くのサンプルが用意されており、無償のアプリケーション Nord Sound Managerを使用してそれらを本機にダウンロードできます。さらに、同じくNordウェブサイトからダウンロードできる無償のアプリケーション Nord Sample Editorを使用すれば、あらゆるサウンド・ソースからカスタム・サンプルを作成できます。

サンプルを選択する

[SAMPLE SELECT]ダイヤルを使用して、利用可能なサンプルをスクロールします。選択したサンプルの場所と名前はプログラム・エリアのディスプレイに表示されます。保存操作を実行すると、サンプルの選択状態がプログラム内に保存されます。

リスト・ビュー

[SHIFT]ボタンを押しながら[SAMPLE SELECT]ダイヤルを回すと、リスト内のすべてのサンプルをブラウズできます。ディスプレイ上の[Abc]ボタンと[Cat]ボタンを使用すると、名前またはカテゴリーに基づいてサンプルを表示できます。特定のカテゴリーのサンプルだけを表示するには、ディスプレイ上の[Cat]ボタンを押しながら[PROGRAM]ダイヤルを使用して目的のカテゴリーを選択します。



サウンドを形成する

ロードしたサンプルのサウンドと動作を微調整する方法がいくつかあります。この操作により、サンプルのダイナミクスや反応を調節できます。各サンプルには以下のパラメーターのプリセット値が用意されており、サンプルを選択すると自動的にロードされます。もちろん、これらのコントロールはすべて、必要に応じて手動で調節することもできます。

DYNAMICS

[DYNAMICS]コントロールを使用すると、ベロシティ・レスポンスを4段階から選択できます。この機能がオフになっている場合(すべてのLEDが消灯)、サンプルは常にフル・ベロシティで再生されます。この機能がオンになっている場合、[1]、[2]、[3]の設定でダイナミクス・レンジを段階的に広げられます。

FILTER

[FILTER] ボタン ([SHIFT] + [DYNAMICS]) を押すと、サンプル・シンセにベロシティ・センス付きロー・パス・フィルターが適用されます。このフィルターは鍵盤を弾く強さに反応します。つまり、鍵盤を弱く弾けば柔らかいサウンドになり、強く弾けば明るいサウンドになります。

[ATTACK]、[SUSTAIN]、[DECAY/RELEASE]

これらのコントロールを使用すると、サンプル・シンセ・サウンドの輪郭、つまりエンベロープを設定できます。

[ATTACK]は、サンプルが最大レベルに達するまでの時間を設定します。[DECAY/RELEASE]は、サンプルがトリガーされてから消えるまでの時間を設定します。ノブを12時の位置に設定した場合[SUSTAIN]モードとなり、サンプルは鍵盤を押している間中鳴り続けます。12時の位置を越えると、ノブを右に回すほど鍵盤を放したあとのテイル部分が長くなります。

8 エフェクト



エフェクトをオンにする

エフェクトをオンにするには、各エフェクトの **[ON/OFF]** ボタンを押します。ボタンの上の LED は、そのエフェクトが割り当てられているサウンド・エンジンを示します **[O]** = オルガン、**[P]** = ピアノ、**[S]** = サンプル・シンセ)。 **[SOURCE]** ボタン (**[SHIFT]** + **[ON/OFF]**) を押すと、エフェクトがかかるサウンド・エンジンが切り替わります。

※ ソースは、**[SOURCE]** ボタンをダブルクリックして選択することもできます。

エフェクト 1

エフェクト 1 ユニットには 6 種類のモジュレーション・タイプのエフェクトがあり、セレクター・ボタンで切り替えます。

TREM (トレモロ)

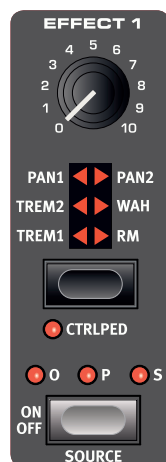
[TREM] (トレモロ) は音量をモジュレートして周期的に変化させるエフェクトで、エレクトリック・ピアノで非常によく使われます。

エフェクトの強さは **[TREM 1]**、**[TREM 2]**、**[TREM 3]** (1+2) から選択できます。

PAN (オート・パン)

PAN はステレオの左右をサウンドがスムーズに行き来するエフェクトです。

エフェクトの強さは **[PAN 1]**、**[PAN 2]**、**[PAN 3]** (1+2) から選択できます。



WAH (ワウ)

[WAH] (ワウ) はあらゆるサウンドをアヒルの鳴き声に似た特徴的なサウンドにするエフェクトで、エレクトリック・ピアノやクラビネットに使うと非常に効果的です。このエフェクトは、**[EFFECT 1]** ノブを使用してフィルターのカットオフ周波数をモジュレートさせるローパス・タイプのフィルターであり、スイープするときにサウンド・キャラクターが大きく変化します。

ワウ・エフェクトは入力信号の音量変化でフィルターのカットオフ周波数をコントロールするペロシティ・センシティブ (エンベロープ・フォロワー) なエフェクトです。

※ エフェクト 1 の **[CTRLPED]** モードがオンになっている場合、このエフェクトはコントロール・ペダル・ジャックに接続したエクスプレッション・ペダルを使用して従来のワウ・ペダルとして使用することもできます。

RM (リング・モジュレーション)

[RM] (リング・モジュレーション) は 2 つの入力信号を互いに掛け算するエフェクトで、不協和なベルのような音になります。Nord Electro 6 のリング・モジュレーションでは、インストゥルメントからの信号とエフェクトに内蔵のサイン波を掛け算するようになっています。

リング・モジュレーションの量は固定されており、レートは **[EFFECT 1]** ノブでコントロールします。

CTRLPED

[CTRLPED] ボタン (**[SHIFT]** + **[EFFECT 1]** セレクター) を押すと、エフェクト 1 セクションのすべてのエフェクトを、コントロール・ペダル入力ジャックに接続したペダルでコントロールできるようになります。トレモロ・エフェクトとパン・エフェクトの場合、ペダルはエフェクトの量をコントロールします。これはパネルからはコントロールできません。

WAH と RM の場合、ペダルは **[EFFECT 1]** ノブと同じ働きをします。つまり、WAH の場合はペダルが従来のワウ・ペダルとして機能し、RM エフェクトの場合はモジュレーション・レートをペダルでコントロールできます。

エフェクト 2

エフェクト 2には、フェイザーとコーラス各 2 種類、フランジャーとヴァイブ・エフェクト各 1 種類を含むモジュレーション・エフェクトが用意されています。どのエフェクトも、[EFFECT 2] ノブでエフェクトの周期をコントロールします。

PHAS 1&2 (フェイザー)

[PHAS] (フェイザー)・エフェクトはいわゆるスイープ・サウンドが特徴的で、エレクトリック・ピアノによく合うエフェクトです。Nord Electro 6 のデジタル・フェイザーは、Bi-Phase や Small Stone といったクラシック・フェイザーをベースにしています。

FLANG (フランジャー)

[FLANG] (フランジャー) は強烈なコム・フィルター効果を生み出すエフェクトで、サウンドに反響と「うねり」を加えます。

CHOR 1&2 (コーラス)

様々な用途に使用できる [CHOR] (コーラス)・エフェクトは、モジュレーションをかけたオーディオ信号のコピーを複数ブレンドすることでサウンドに「広がり」を加えます。また、設定値を高くすれば強いデチューンをかけることもできます。コーラスは [CHOR1] と [CHOR2] の 2 種類あり、2 つ目のエフェクトの方がはっきりとした効果を得られます。

VIBE (ヴァイブ)

[VIBE] (ヴァイブ)・エフェクトは伝統的なフット・ペダルのエフェクトからヒントを得たもので、ピッチベンドとフェイザーの両方をかけたようなサウンドになります。このエフェクトは、一般的なフェイザーとは異なる方法でフェイズ・フィルターを多段階に配列したものです。

DEEP

[DEEP] モード ([SHIFT] + [EFFECT 2] セレクター) をオンにすると、エフェクト 2 のあらゆるエフェクトのモジュレーション量が増加します。

ディレイ

ディレイは、リピート・エコーを作り出すエフェクトです。ディレイ・タイムを設定するには、[TEMPO] ボタンをタップするか、[TEMPO] ボタンを押しながらプログラム・セクション・ダイヤルを使用してテンポを設定します。

[FEEDBACK] ボタンでディレイを繰り返す量 (タップ) を設定します。最も低い値 (LED は点灯しない) に設定すると最初のタップだけが聴こえ、1、2、3 に設定すると、数字が大きくなるほどフィードバック・テイルが長くなります。

[DRY WET] ノブで原音とディレイ音のバランスを調整します。

PING PONG

[PING PONG] ボタン ([SHIFT] + [TEMPO]) を押し、ピンポン・モードがオンになります。このモードでは、ディレイ・リピートを左右のチャンネルに交互に出すことができます。ディレイ・タイムを短くすると、リピートが非対称になり、リバース・エフェクトの初期反射音のようなサウンドになります。



TEMPO TAP

[TAP] ボタンを使用して曲のテンポに合ったディレイ・タイムを設定することができます。欲しいディレイ・タイムのテンポを [TEMPO] ボタンで数回叩くと、あとは自動的にディレイ・タイムが調整されます。

SPKR/COMP

[SPKR/COMP] ユニットは、高度なアンプ・シミュレーターとスピーカー・キャビネット・シミュレーター (ロータリー・スピーカーを含む) に便利なコンプレッサー・エフェクトを組み合わせたものです。

DRIVE/COMP

アンプ・モデルまたはコンプレッサーが選択されていない場合、[DRIVE] ノブはチューブ・スタイルのオーバードライブ・エフェクトとして使用できます。アンプ・モデルが選択されている場合は、そのアンプ・モデルのオーバードライブの量をコントロールします。オーバードライブがかかると [DRIVE] LED が点灯します。

アンプ・モデル

アンプ・モデルは 3 種類 (ロータリーを含めると 4 種類) あり、セレクター・ボタンで選択できます。アンプ・モデルには次のタイプがあります。

| モデル | 内容 |
|-------|---|
| JC | クラシックなソリッドステート・アンプとスピーカー・キャビネットのシミュレーション |
| SMALL | エレクトリック・ピアノに組み込まれたチューブ・アンプとスピーカーのシミュレーション |
| TWIN | クラシックなツイン・スピーカー・チューブ・アンプとキャビネットのシミュレーション |

ロータリー

Nord Electro 6 のロータリーは、回転するローターやホーンはもちろんのこと、オリジナルの内蔵プリアンプの特性も忠実に再現したものです。

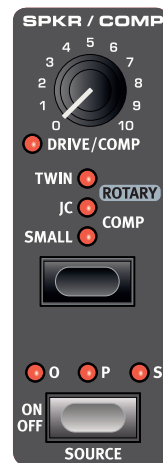
- [SPKR/COMP] ユニットがオフの場合、ロータリー・エフェクトはオルガン・セクションの左側にあるロータリー・スピード・コントロール ([SLOW/STOP]、[FAST]) を操作すると自動的にオンになります。ロータリー・エフェクトのソースは、アクティブなサウンド・エンジンの一番先に設定されます。

- ローターのファスト / スローの切り替えは、[SLOW/STOP]、[FAST] ボタンで行います。

- ローターの回転を止めるには、[STOP MODE] ボタンを押し、スピードを [SLOW/STOP] に設定します。止まっている状態は、エフェクトがオフになっているということではなく、ローターが静止している状態のことです。この状態から [SLOW/STOP] ボタンを押すと、回転スピードが徐々に上がりファストになります。これは、ファストとストップ 2 モードだった初期のロータリー・スピーカーの動作を再現したものです。

- ローターの回転が切り替わる速度を、サウンド・メニューで設定することができます。詳しくは 27 ページをご参照ください。また、[SPKR/COMP] セクションの [DRIVE] ノブは、オーバードライブの量をコントロールします。これはオリジナルのロータリー・スピーカーのプリアンプ部で発生するオーバードライブを再現したものです。

サスティン・ペダルまたはフット・スイッチをローター・ペダル・インプットに接続すると、ローター・スピードをペダルでコントロールできます。Nord Electro 6 D モデルでは、別売の Nord Half Moon Switch を使用して、昔ながらの方法でロータリー・スピードを切り替えることもできます。



- ❶ ロータリー・ドライブは、入力信号のレベルによって変わります。ロータリーにルーティングされたインストゥルメントの音量が非常に小さいと、オリジナルと同様、ドライブできる量も非常に限定的になります。例えばスウェル・ペダルでオルガンの音量を上げると、オーバードライブ量もその分だけ増えます。

ロータリー・メニューの設定

サウンド・メニューには、ロータリー・スピーカーの動作とサウンドを調節するためのパラメーターがいくつか用意されています。詳しくは 27 ページをご参照ください。

COMP

[COMP] (コンプレッサー) エフェクトはサウンドのダイナミック・レンジを低減することで、低いレベルの信号を持ち上げ、高いレベルの信号を下げます。これにより、タイトで迫力のあるサウンドになり、特にライブでのミックスがしやすくなります。

イコライザー



トレブル、ミッド、ベースの 3 バンド・イコライザーです。各バンドの周波数は**トレブル**が 4kHz、**ミッド**は 200Hz ~ 8kHz、**ベース**は 100Hz です。ミッド周波数は **[FREQ]** ノブを使用して設定できます。ブースト/カット量は ± 15dB です。



希望するソースの LED (**[O]** = オルガン、**[P]** = ピアノ、**[S]** = サンプル・シンセ) が点灯するまで **[SOURCE]** ボタン (SHIFT) + **[ON/OFF]** を押して、イコライザーを割り当てるサウンド・エンジンを選択します。

リバーブ

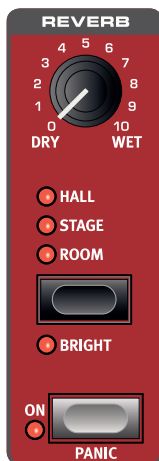
リバーブは、様々な音響環境で発生する自然な残響音をシミュレートするエフェクトです。リバーブは、アクティブなすべてのサウンド・エンジンに常に適用される「グローバル」なエフェクトです。

ホール・リバーブは大ホールの音響特性をシミュレートしたもので、長い残響音の特徴です。**ステージ**・リバーブはそれよりもやや短めの残響音、**ルーム**・リバーブはそれよりもさらに残響音が短くなります。

[BRIGHT] モード ((SHIFT) + [REVERB] セレクター) では、リバーブ信号の高周波数部分がより多く残ります。

[DRY WET] コントロールでリバーブ音と原音のバランスを調整します。

- ❶ ロータリー・エフェクトを使用している場合は、リバーブの「コピー」がロータリー・スピーカーにルーティングされ、ロータリー・エフェクトを使用するサウンド・ソースに適用されます。



PANIC

[PANIC] 機能 ((SHIFT) + [REVERB ON]) はリバーブ・エフェクトとは関係ありませんが、MIDI 経由で受信した音を含め、再生中のすべての音を停止します。

9 MIDI

MIDI 機能

Nord Electro 6 は、外部音源などのハードウェアやソフトウェアをマスター・キーボードとしてコントロールできます。また、Nord Electro 6 の一部またはすべてを独立したキーボードや MIDI 機器からコントロールすることもできます。

グローバル MIDI

グローバル MIDI チャンネルを使用すると、MIDI 情報の送受信を同時に行えます。本機の内蔵音源を使用しているのと同様の感覚でキーボード演奏を行えるほか、キーボード、ペダル、パネル上の操作を別の MIDI 機器やシーケンサーに送信できます。

- ❶ グローバル MIDI は、システム・メニューでオフにすることができます。

本機での演奏を MIDI シーケンサーや DAW にレコーディングする

ペダル操作やパラメーター調節を含め、本機での演奏を DAW や MIDI シーケンサーにレコーディングする方法を説明します。

- ① DAW またはシーケンサーに入力された MIDI 信号を、本機のグローバル MIDI チャンネルとして再ルーティングします。
- ② システム・メニューに入り、ローカルをオフにします。
- ③ レコーディングで使用したい本機のプログラムを選択します。
- ④ シーケンサーのレコーディングを開始します。

グローバル・チャンネルの MIDI アウトでは、本機のスプリットの状態は反映されず、単にキーボードからの MIDI ノート・ナンバーを送信します。

- ❶ パネル上のトランスポーズ機能またはシステム・メニューの「Global Transpose」設定でトランスポーズ値が設定されている場合、MIDI への効果はシステム・メニューの「Transpose MIDI at」の設定によって異なります。この機能については 27 ページで詳しく説明します。

EXTERNAL KBD TO LO 機能

この機能を使用すると、外部キーボードを使用していずれかのサウンド・エンジンやデュアル・オルガンのローワー鍵盤をコントロールできます。この機能を使用してコントロールするサウンド・エンジンやオルガン鍵盤は、Nord Electro 6 のキーボードからはコントロールできません。これらの設定はプログラムごとに保存されるため、ライブ演奏に最適です。設定方法の例を以下に示します。

- ① **[EXTERNAL KBD TO LO]** ボタン ([SHIFT] + [KBD SPLIT]) を押します。
- ② 外部 MIDI キーボードを Nord Electro 6 の [MIDI IN] ジャックに接続します。
- ③ 本機のシステム・メニューで、外部キーボードの MIDI チャンネルを外部 MIDI 機器の MIDI チャンネルに合わせます (詳しくは 26 ページを参照)。デフォルト設定のチャンネルは 16 です。
- ④ 外部キーボードからコントロールする 1 つまたは複数のサウン

ド・エンジンを **[LO]** キーボード・ゾーン ([SHIFT] + [ON/OFF]) に割り当てて選択します。**[UP]** に設定したサウンド・エンジンは、通常通り Nord Electro 6 からコントロールできます。

- ⚠ パネル上のトランスポーズ機能を使用して Nord Electro 6 をトランスポーズしている場合、システム・メニューの「Transpose MIDI at」設定に関係なく、外部キーボード・チャンネルで受信した MIDI もトランスポーズされます。

この機能を実際を使用する場合の 2 つの例を以下に示します。ここでは、外部コントローラーとして Nord Lead A1 を使用しています。

例 1：外部キーボードを使用したデュアル・オルガン・モードの Nord Electro 6

オルガンの KBD ゾーン：LO+UP (デュアル・オルガン)、ピアノ & シンセ：オフ



例 2：オルガン用に Nord Electro 6、ピアノ & シンセ用に外部キーボード

オルガンの KBD ゾーン：UP、ピアノ & シンセの KBD ゾーン：LO



MIDI メッセージ

Nord Electro 6 では、次の MIDI メッセージを送受信できます。

ノート・オン/オフ

- ノート・オンおよびノート・オフ・メッセージの送受信

コントローラー

コントロール・チェンジ・メッセージの送受信設定は、システム・メニューで行います。

- コントロール/エクスプレッション・ペダルをコントロール・ペダル・インプットに接続している場合、コントローラー 11 (CC11：エクスプレッション) の送受信を行います。
- サスティン・ペダルをサスティン・ペダル・インプットに接続している場合、コントローラー 64 (CC64：サスティン・ペダル) の送受信を行います。

- 本機のフロント・パネル上にあるほとんどのノブやボタンもコントロール・チェンジ・メッセージとして送受信でき、パネル上の操作をシーケンサーにレコーディングすることができます。すべてのパラメーターとコントロール・ナンバーの対応を一覧にした表は、29 ページをご参照ください。

キーボード・ベロシティ

Nord Electro 6 は、キーボード・ベロシティ・メッセージの送受信が行えます。ただし、オルガン・サウンドは、入力したベロシティ・データに関係なく一定のレベルで発音します。また、本機からはリリース・ベロシティの送信が可能ですが、受信はできません。

プログラム・チェンジ

プログラム、ライブ・プログラム、ピアノ、またはサンプルをロードすると、グローバル MIDI チャンネルにプログラム・チェンジ・メッセージが送信されます。このとき、各コンテンツの種類は Bank MSB の値で識別されます。反対に、プログラム・チェンジ・メッセージを受信した場合は、Nord Electro 6 上の対応するコンテンツが選択されます。このメッセージは以下の表に示す 3 つの部分で構成されています。

| | プログラム | ピアノ | サンプル | ライブ |
|-------------------|--------|-------|--------|-------|
| Bank MSB (CC# 0) | 0 | 3 | 4 | 6 |
| Bank LSB (CC# 32) | 0 ~ 25 | 0 ~ 5 | 0 ~ X | 0 ~ 1 |
| プログラム・チェンジ | 0 ~ 15 | 0 ~ X | 0 ~ 49 | 0 ~ 3 |

X の値は、メモリー内のピアノまたはサンプルの数によって異なります。

- ❶ Nord Electro 6 に届いたプログラム・チェンジ・メッセージにバンク・セレクト・メッセージが含まれていない場合、そのメッセージは現在選択されているプログラムまたはライブ・バンクに適用されます。

プログラム・チェンジ・メッセージをグローバル・チャンネルで送受信するかどうかは、システム・メニューで設定できます。詳しくは 26 ページをご参照ください。

ローカル・コントロールのオン/オフ

ローカル・コントロールをオフに設定した場合、Nord Electro 6 のキーボードとパネルはサウンド・エンジンから「切り離されます」。オフ設定は、インストゥルメントを MIDI ループに設定する場合（例えば、DAW やシーケンサーと一緒に使用する場合）に使用します。

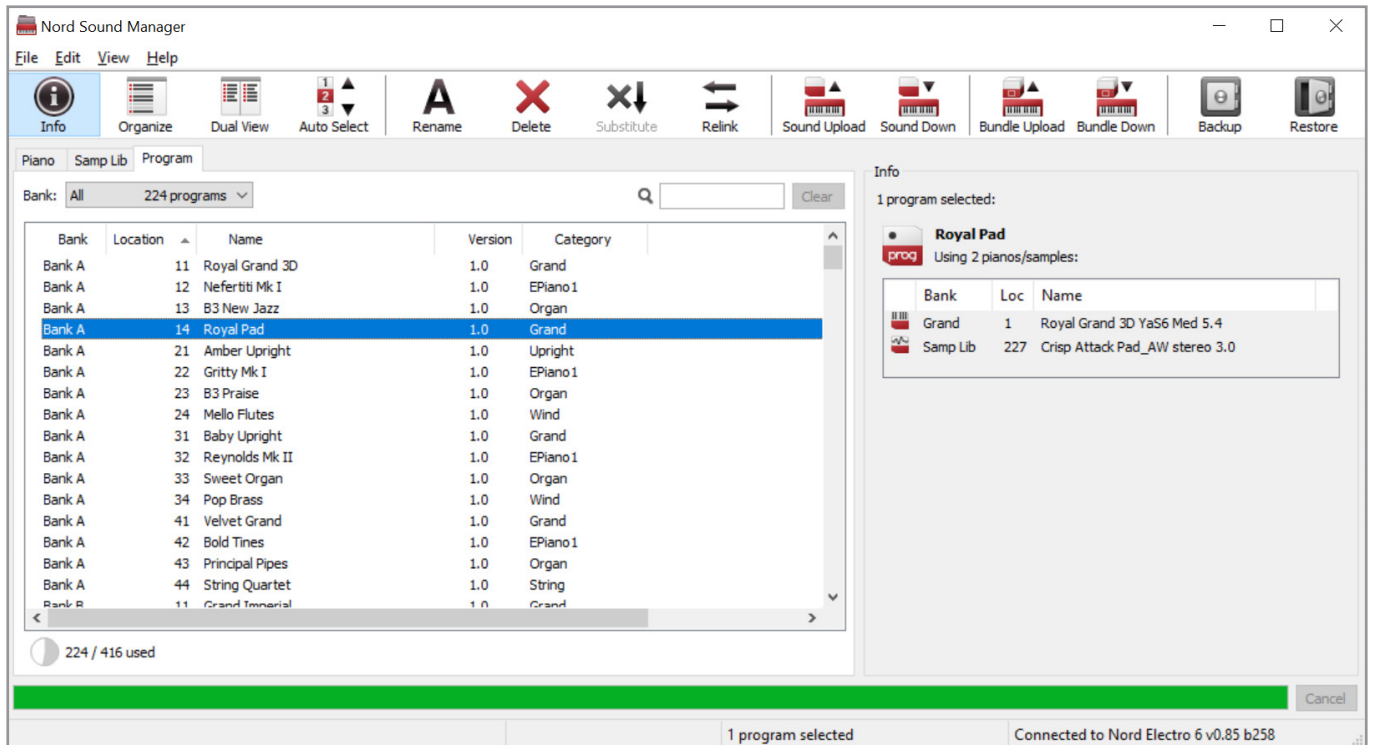
ローカル・コントロールをオンに設定した状態で MIDI ループを使用すると、1 つは内部キーボードから直接トリガーされ、もう 1 つは MIDI を介して Nord Electro 6 にエコー・バックされるため、演奏時に音が「二重にトリガー」されてしまいます。ローカル・コントロールのオン/オフ設定はシステム・メニューで行います（26 ページをご参照ください）。

PANIC



MIDI のセッティングを行っているときに本機の音が止まらなくなってしまった場合、または何らかの理由ですべてのサウンドを止める必要がある場合には、**[PANIC]** ([SHIFT] + [REVERB ON]) 機能を使用します。これは、内部的に「オール・ノート・オフ」メッセージを発生させ、そのとき入力されているコントロール・チェンジ・メッセージをリセットする機能です。

10 NORD SOUND MANAGER



NORD SOUND MANAGER について

Nord Sound Manager は Nord Electro 6 ユーザーにとって非常に重要なアプリケーションです。Nord Sound Manager を使用することで、Nord Electro 6 の様々なメモリー・エリア内のコンテンツの並べ替え、変更、バックアップなどを実行できます。Nord Sound Manager では主に次のようなタスクを実行します。

- プログラムに名前を付ける / 並べ替える
- ピアノ・パーティションに新しいピアノ・サウンドをダウンロードする
- サンプル・パーティションに新しいサンプルをダウンロードする
- Nord Electro 6 からコンピュータにプログラムをアップロードする
- プログラムおよび関連付けられたピアノ・ファイルとサンプル・ファイルを含むバンドルをアップロードする
- インストゥルメント全体のバックアップを実行する
- インストゥルメント全体を以前の状態に戻す

Nord Sound Manager およびこのアプリケーションのユーザー・マニュアルは、Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.com) の「Software」ページからダウンロードできます。

動作環境

Mac OS X 10.6 以降

Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Windows 10

Windows でご利用の場合は、Nord USB Driver バージョン v3.0 以降をインストールする必要があります。

11 メニュー

システム・メニューとサウンド・メニューで行った設定はその場で有効になり、次に変更するまで維持されます。

- ❶ 例外として、MIDI ローカル・オン/オフ設定だけは Nord Electro 6 を起動するたびにローカル・オンの状態に戻ります。

各メニューを開くには、**[SHIFT]** を押しながら **[SYSTEM]** または **[SOUND]** ([PROGRAM] ボタンの [1] または [2]) を押しします。メニューの切り替えは **[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタンで行い、設定を変更するには **[PROGRAM]** ダイアルを回します。その他の設定がある場合にはディスプレイ上のボタンを使用して表示できます。メニューを終了するには **[EXIT]** ([SHIFT]) ボタンを押しします。

システム・メニュー

1 - MEMORY PROTECT

プログラムが誤って上書きされないように、Nord Electro 6 の出荷時にはメモリー・プロテクトがオンに設定されています。メモリー・プロテクトをオフに設定すると、保存操作が可能になります。メニュー設定とライブ・プログラムはこの設定の影響を受けません。

レンジ：On (デフォルト値)、Off

2 - NUMPAD PROGRAM SELECT

プログラムは 2 つの方法で選択できます。デフォルトでは、標準の「ページ・ベース」モードが使用されますが、「数字パッド」の入力で選択することもできます。[NUMPAD PROGRAM SELECT] をオンにすると、[PROGRAM] ボタンの [1] ~ [4] を使用して数字を入力することで、現在のバンク内の 16 個すべてのプログラム (11-44) にアクセスできます。このモードでは、[PAGE] ボタンが [BANK] ボタンとして機能します。[NUMPAD PROGRAM SELECT] をオフにすると、[PROGRAM] ボタンの [1] ~ [4] が現在のページ内の 4 つのプログラムに対応します。

レンジ：Off (デフォルト値)、On

3 - SEAMLESS PROGRAM LOAD

プログラムを切り替えたときにトランジションをどのように処理するかを設定します。オンに設定すると、プログラムを切り替えたときにサスティン・ノートとエフェクト・テイルが保持されます。オフに設定すると、プログラムを切り替えたときに鳴っている音はすべて停止します。

レンジ：Off、On (デフォルト値)

4 - GLOBAL TRANSPOSE

この設定では Nord Electro 6 全体のトランスポーズを半音単位でセットします。ここで設定した値は、プログラムごとに設定、保存できるパネル上で設定したトランスポーズ値に加算されます。

レンジ：± 6 半音 (デフォルト値 = 「none」)

5 - FINE TUNE

Nord Electro 6 のピッチを細かい精度でチューニングします。

レンジ：± 50 セント (デフォルト値 = 0)

6 - OUTPUT ROUTING MODE

[Stereo] モードでは、すべてのサウンドが両方のオーディオ出力に送信されます。[Main:L Organ:R] に設定すると、ピアノ・サウンドとサンプル・シンセ・サウンドが左の出力に、オルガン・サウンドが右の出力に設定されます。

レンジ：Stereo (デフォルト値)、Main:L Organ:R

7 - SUSTAIN PEDAL

TYPE

[SUSTAIN PEDAL] ジャックに接続されたペダルの種類を選択します。サスティン・ペダルには極性があり、ペダルと本機の極性が合っていないとペダルを踏んでいないときにサスティンがかかってしまい、踏んだときにサスティンが止まります。このような場合、このパラメーターで極性を反転させます。[Auto] の場合は、本機がペダルの極性を自動的に検出します。

レンジ：Open、Closed、Auto (デフォルト値)

FUNC (機能)

接続したサスティン・ペダルを使用して、サスティンとロータリー・スピードの両方をコントロールできます。設定は、サスティンのみ、サスティンとローター・ホールド (ペダルを踏んだときのみファストになる)、サスティンとローター・トグル (ペダルを踏んだときにファストとスローを切り替える) の 3 つから選べます。

レンジ：Sustain (デフォルト値)、Sus+Rotor Hold、Sus+Rotor Toggle

8 - ROTER PEDAL

TYPE

[ROTOR PEDAL] インプットに接続したスイッチ・ペダルの種類 / 極性を変更し、機能を反転できます。Nord Electro 6D モデルでは、[Half Moon Switch] に設定することもできます。[Auto] の場合は、本機がペダルの極性を自動的に検出します。

レンジ：Open、Closed、Half Moon Switch (D モデル)、Auto (デフォルト値)

FUNC (機能)

接続したローター・ペダルの機能を変更できます。[Rotor Hold] に設定すると、ペダルを踏んでいる間だけローター・スピードがファストになり、ペダルから足を離すとスローになります。[Rotor Toggle] は、ペダルを踏むたびにローター・スピードのファストとスローを切り替える設定です。

レンジ：Rotor Hold (デフォルト値)、Rotor Toggle

9 - CONTROL PEDAL

TYPE

Nord Electro 6 は多くのブランドのコントロール・ペダルを **[CONTROL PEDAL]** インプットに接続できます。コントロール・ペダルを使用する際、このパラメーターで主な各ペダルの特性に合わせます。

接続したペダルをこのメニューで使用している場合、接続したペダルのレンジを示すパーセンテージがディスプレイに表示されます。

レンジ：Roland EV7（デフォルト値）、Yamaha FC7、Korg、Fatar/Studiologic

GAIN

[CONTROL PEDAL] インプットに接続したペダルを完全に踏み込んだ状態でも、コントロールするパラメーターの最大値や最大設定に達しない場合、この設定でペダル信号をアップさせることができます。

レンジ：1 ~ 10

10 - LOCAL CONTROL

Nord Electro 6の鍵盤とパネルで内部サウンド・エンジンとプログラムを制御するか、またはMIDI信号のみを送信するか（ローカル・コントロール）の設定をします。ローカル・コントロール・オンが通常モードです。ローカル・コントロール・オフの場合は、フロント・パネルとキーボードはMIDI信号のみを送信します。

レンジ：On（デフォルト値）、Off

- ❶ このパラメーターの設定は本機の電源投入時に必ず「On」になります。

11 - CHANNEL

GLOBAL

グローバル・チャンネルの送受信 MIDI チャンネルをこのパラメーターで設定します。グローバル・チャンネルは、すべてのキーボード、ペダル、パネル上の操作を MIDI 信号として送信するチャンネルです。また、本機全体を MIDI でコントロールするときもこのチャンネルを使用します。

レンジ：1 ~ 16、Off（デフォルト値 = 1）

EXTERNAL KBD

「External KBD to Lo」機能を使用した場合に外部キーボードからMIDIを受信するチャンネルを設定します。詳しくは17ページをご参照ください。

レンジ：1 ~ 16、Off（デフォルト値 = 16）

12 - CONTROL/PROGRAM CHANGE MODE

CC(コントロール・チェンジ)

MIDIコントローラー・メッセージを、グローバル・チャンネルで送受信するかどうかの設定を行います。

レンジ：Off、Send、Receive、Send & Receive（デフォルト値）

PC(プログラム・チェンジ)

MIDI プログラム・チェンジ・メッセージを、グローバル・チャンネルで送信/受信するかどうかの設定を行います。

レンジ：Off、Send、Receive、Send & Receive（デフォルト値）

13 - TRANSPOSE MIDI AT

[In]に設定すると、アクティブなトランスポーズ値（グローバル/プログラムごと設定）が受信されるMIDIデータにのみ適用され、送信されるMIDIには適用されません。[Out]モードでは、送信されるMIDIノートのみがトランスポーズされ、受信するMIDIノートはトランスポーズされません。

レンジ：In（デフォルト値）、Out

サウンド・メニュー

1 - PIANO STRING RES LEVEL

ストリング・レゾナンス機能をオンにした場合の、ストリング・レゾ

ナンスのレベルを設定します（アコースティック・ピアノ・モデルのミディアム、ラージ、エクストラ・ラージ・サイズでのみ使用可能）。

レンジ：± 6dB（デフォルト値 = 0dB）

2 - B3 ORGAN TONEWHEEL MODE

B3 オルガン・モデルのトーンホイール・クロストークやケーブル・リーケージのレベルを設定します。

レンジ：Clean、Vintage1（デフォルト値）、Vintage2

3 - B3 ORGAN CLICK LEVEL

B3 オルガン・モデルのキー・クリックのレベルを設定します。

レンジ：Low、Normal（デフォルト値）、High

4 - B3 ORGAN KEYBOARD TRIGGER POINT

B3 サウンドのキーボード・トリガー設定を行います。「High」に設定されている場合、鍵盤を完全に押し込む前にサウンドがトリガーされ、実際のB3の動作により近くなります。

レンジ：High、Low（デフォルト値）

5 - ROTARY SPEAKER

122ロータリー・スピーカーには2種類の設定を使用できます。[122]に設定すると「仮想マイク」がキャビネットから離れた場所に配置され、[122 Close]に設定すると「仮想マイク」がキャビネットの近くに配置されます。

レンジ：122（デフォルト値）、122 Close

6 - ROTARY BALANCE

ロータリー・スピーカーのベース・ローターとトレブル・ホーン間の音響バランスをパーセンテージで設定します。

レンジ：70/30、60/40、50/50（デフォルト値）、40/60、30/70

7 - ROTARY ROTOR

SPD(スピード)

ロータリー・スピーカーのベース・ローターの回転スピードを設定します。

レンジ：Low、Normal（デフォルト値）、High

ACC(アクセラレーション)

ロータリー・スピーカーのスピードを切り替えたときに、ベース・ローターの回転スピードが徐々に変化する速さを設定します。

レンジ：Low、Normal（デフォルト値）、High

8 - ROTARY HORN

SPD(スピード)

ロータリー・スピーカーのトレブル・ホーンの回転スピードを設定します。

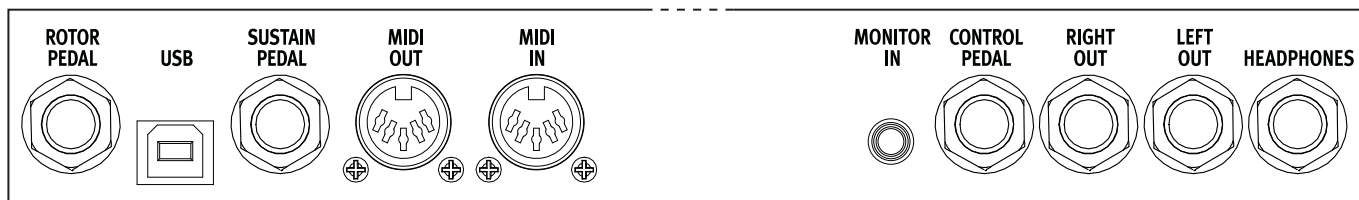
レンジ：Low、Normal（デフォルト値）、High

ACC(アクセラレーション)

ロータリー・スピーカーのスピードを切り替えたときに、トレブル・ホーンの回転スピードが徐々に変化する速さを設定します。

レンジ：Low、Normal（デフォルト値）、High

12 接続について



オーディオの接続

オーディオ接続について：すべての接続が済んでからアンプの電源を入れてください。アンプの電源は必ず最後に入れ、電源を切るときは必ず最初にアンプまたはアクティブなスピーカーの電源を切ってください。

⚠ Nord Electro 6 を大音量で使用すると、聴覚を損なう恐れがあります。

HEADPHONES

1/4 インチのステレオ・ヘッドフォン・ジャックです。アウトプット・ルーティングの設定に関係なく、オーディオは常にヘッドフォン・アウトプットから出力されます。

LEFT OUT、RIGHT OUT

アンプやレコーディング機器に使用する 1/4 インチのアンバランス・ライン・レベル出力です。Nord Electro 6 は、左右のオーディオ・チャンネルに個別の信号経路を持つステレオ・インストゥルメントです。

出荷時には、左右のアウトプットからオーディオを出力するように構成されています。その他の設定については、26 ページのシステム・メニューのセクションをご参照ください。

MONITOR IN

スマートフォン、タブレット、コンピュータなどのデバイスを Nord Electro 6 に接続するための 1/8 インチ・ジャックです。事前に録音した音楽やメトロノームに合わせて演奏やリハーサルを行ったり、ステージ上で追加のサウンド・ソースを使用したりする場合に便利です。モニター・インで入力された信号は、ヘッドフォン・アウトプットと左右のアウトプットにルーティングされます。

⚠ Nord Electro 6 のマスター・レベル・コントロールは、モニター・イン信号のレベルには影響しません。

MIDI の接続

MIDI IN

コントローラー・キーボード、シーケンサー、コンピュータなどの外部 MIDI 機器から送信された MIDI データを受信するための 5 ピン MIDI イン接続です。

MIDI OUT

外部の MIDI 音源モジュールやコンピュータなどのデバイスに MIDI データを送信する 5 ピン MIDI アウト接続です。

USB 接続

USB ポートは Nord Electro 6 をコンピュータに接続する際に使用します。MIDI 送信や OS アップデートのほか、Nord Sound Manager や Nord Sample Editor といったアプリケーションの接続に使用できます。これらのアプリケーションと最新の OS は、Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.com) からいつでもダウンロードできます。

❶ USB MIDI と標準の 5 ピン MIDI コネクタは同時に使用できません。メニューなどでどちらかを選択する必要はありません。

ペダル接続

SUSTAIN PEDAL

一般的なあらゆるタイプのサスティン・ペダルを接続するための 1/4 インチ・コネクタです。サスティン・ペダルの極性は自動的に検出することも、システム・メニューで手動で設定することもできます (26 ページを参照)。

CONTROL PEDAL

ボリューム、B3 スウェル、エフェクト 1 などのコントロールに使用するコンティニューアス・タイプのエクスペッション・ペダルを接続するための 1/4 インチ・コネクタです。一般的なエクスペッション・ペダルのほとんどのメーカーとモデルに対応しています。使用するエクスペッション・ペダルはシステム・メニューで選択できます (26 ページを参照)。

ROTOR PEDAL

ロータリー・スピード・パラメーターのコントロールに使用するスイッチまたはサスティン・タイプのペダルを接続するための 1/4 インチ・コネクタです。Nord Electro 6 D モデルでは、ここに別売の Nord Half Moon Switch を接続できます。接続したペダルまたはスイッチはシステム・メニューで設定できます (26 ページを参照)。

付録：MIDI コントローラー・リスト

| Nord Electro 6パラメーター | MIDI CCナンバー |
|--|-------------|
| Bank Select MSB Program | 0 |
| Bank Select MSB Live | 6 |
| Bank Select MSB Piano | 3 |
| Bank Select MSB Sample | 4 |
| Bank Select LSB | 32 |
| | |
| Volume | 7 |
| Pan | 10 |
| | |
| Sustain | 64 |
| Ctrl Pedal (Expression) | 11 |
| KBD Split / Ext.KBD To Lo / Dual Organ | 3 |
| | |
| Organ Enable | 9 |
| Organ Octave Shift | 12 |
| Organ Sustain Pedal | 47 |
| Organ Ctrl Pedal | 48 |
| Organ Level | 13 |
| Organ Model | 14 |
| Organ Preset | 15 |
| Organ Drawbar 1 | 16 |
| Organ Drawbar 2 | 17 |
| Organ Drawbar 3 | 18 |
| Organ Drawbar 4 | 19 |
| Organ Drawbar 5 | 20 |
| Organ Drawbar 6 | 21 |
| Organ Drawbar 7 | 22 |
| Organ Drawbar 8 | 23 |
| Organ Drawbar 9 | 24 |
| Organ Percussion Enable | 25 |
| Organ Vibrato Type | 26 |
| Organ Vibrato Enable | 27 |
| Organ Percussion Harmonic | 28 |
| Organ Percussion Speed | 29 |
| Organ Percussion Level | 30 |
| Organ Edit Lower Manual | 8 |
| | |
| Piano Enable | 33 |
| Piano Level | 34 |
| Piano Octave Shift | 35 |
| Piano Sustain Pedal | 49 |
| Piano Ctrl Pedal | 50 |
| Piano Type | 36 |
| Piano Model | 37 |
| Piano Variation | 38 |

| Nord Electro 6パラメーター | MIDI CCナンバー |
|----------------------------|-------------|
| Piano EQ | 40 |
| | |
| Sample Synth Enable | 42 |
| Sample Synth Level | 43 |
| Sample Synth Octave Shift | 44 |
| Sample Synth Sustain Pedal | 45 |
| Sample Synth Ctrl Pedal | 46 |
| Sample Synth Attack | 68 |
| Sample Synth Decay/Release | 69 |
| Sample Synth Dynamics | 72 |
| Sample Synth Filter | 73 |
| | |
| Effect 1 Enable | 82 |
| Effect 1 Type | 83 |
| Effect 1 Source | 84 |
| Effect 1 Ctrl Ped | 85 |
| Effect 1 Rate | 86 |
| Effect 2 Type | 87 |
| Effect 2 Source | 88 |
| Effect 2 Deep | 89 |
| Effect 2 Rate | 90 |
| Effect 2 Enable | 91 |
| Delay Source | 92 |
| Delay Amount | 93 |
| Delay Rate | 94 |
| Delay Feedback | 95 |
| Delay Enable | 97 |
| Delay Ping-pong | 98 |
| Amp/Spkr Type | 100 |
| Amp/Spkr Drive | 101 |
| Amp/Spkr Enable | 118 |
| Amp/Spkr Source | 119 |
| EQ Bass | 102 |
| EQ Mid | 103 |
| EQ Treble | 104 |
| EQ Enable | 105 |
| EQ Source | 106 |
| EQ Mid Frequency | 107 |
| Rotary Speed | 108 |
| Reverb Bright | 112 |
| Reverb Amount | 113 |
| Reverb Type | 115 |
| Reverb Enable | 116 |



付録：索引

記号・英数字

[PROGRAM] ダイアル 17
 Acc (Rotary Horn) 27
 Acc (Rotary Rotor) 27
 B3 11
 B3 Organ Key Click Level 27
 B3 Organ Tonewheel Mode 27
 CC (MIDI メニュー) 27
 CH 1&2 OUT 28
 Clav EQ (クラビネット EQ) 15
 Exit (ボタン) 17
 External KBD to Lo 17, 27
 Farf 12
 Fine Tune 26
 Func (Rotor Pedal) 26
 Func (Sustain Pedal) 26
 Gain (Ctrl Pedal) 27
 Global Transpose 26
 JC (アンプ・モデル) 21
 KBD Touch 15
 Mid (EQ) 22
 MIDI 23
 MIDI (LED) 18
 MIDI コントローラー・リスト 29
 MIDI メッセージ 23
 Nord Piano Library 14
 Nord Sound Manager 25
 Organ Keyboard Trigger Point 27
 PC (MIDI メニュー) 27
 PHAS 1&2 (フェイザー) 21
 Piano String Res Level 27
 Pipe1 13
 Pipe2 13
 Rotary Horn 27
 Rotary Rotor 27
 Rotor Pedal 26
 SHIFT (ボタン) 17
 Small (アンプ・モデル) 21
 Sound Menu 27
 Speed (Rotary Horn) 27
 Speed (Rotary Rotor) 27
 Transpose MIDI At (MIDI メニュー) 27
 Trem (トレモロ) 20
 Twin (アンプ・モデル) 21
 Type (Ctrl Pedal) 26
 Type (Rotor Pedal) 26
 Type (Sustain Pedal) 26
 VIBE (ヴァイブ) 21
 Vox 12
 Wah (ワウ) 20
 www.nordkeyboards.com 5

ア行

アウトプット・ルーティング 26
 アップライト 15
 移動 (並べ替え) 18
 エフェクト 1 20
 エフェクト 2 21
 エフェクト・セクション 20
 エレクトリック (ピアノ) 15
 オーディオ接続 28
 オルガン 10

カ行

キー・クリック (B3) 11
 キーボード・スプリット 17
 クラビネット 15
 グランド 15
 グローバル (MIDI) 23
 グローバル (MIDI チャンネル) 23, 27
 コーラス 1&2 21
 コーラス (オルガン) 11
 コンプレッサー 22

サ行

サスティン・ペダル 26
 シームレス・トランジション
 (SEAMLESS PROG CHANGE) 26
 数字パッド (プログラム選択モード) 18, 26
 スtring・レゾナンス 15
 スプリット 16
 スプリット・ポジション 17
 スワップ (並べ替え) 18
 接続 28
 ゾーン・セレクト 16
 ソフト・リリース 15

タ行

タップ・テンポ (ディレイ) 21
 ディスプレイ上のボタン 7, 26
 ディレイ (エフェクト) 21
 デジタル (ピアノ) 15
 ドライブ 21
 トランスポーズ 17
 トレブル (EQ) 22
 ドローバー 10

ナ行

名前を付けて保存 16
 並べ替え 18

ハ行

パーカッション (B3) 11
 パニック 24
 パネル MIDI コントロール 23
 ピアノ 14
 ピアノ・インフォ 15
 ピアノ・サイズ 14
 ピアノ・セレクト 14
 ピンポン 21
 フランジャー 21
 プログラム 17
 プログラム・イニシャライズ 17
 プログラム (セクション) 16
 プログラム・チェンジ 24
 プログラム (ボタン) 17
 ページ・ベース (ナビゲーションモード) 18

ページ・ベース (プログラム選択モード) 18, 26
 ページ (ボタン) 18
 ベース (EQ) 22
 ヘッドフォン 28

マ行

メニュー 26
 メモリー・プロテクト 26
 モデル (ピアノ) 14
 モニター・イン 28
 モノ 15

ラ行

ライブ・モード 17
 リスト・ビュー (ピアノ) 15
 リバープ 22
 ローカル・コントロール (MIDI) 24, 27
 ローター・スピーカー 22

仕様

一般仕様

- ・ マスター・レベル・コントロール
- ・ プログラム：416 (4 プログラム × 4 ページ × 26 バンク)
- ・ ライブ・モード：8 ライブ・プログラム
- ・ プログラムブル・トランスポーズ：±6 半音
- ・ USB MIDI 機能
- ・ シームレス・トランジション
- ・ スプリット・ポイントのクロスフェード・オプション：3 (ラージ、スモール、オフ)
- ・ オーガナイズ/ページ・モード：最大4つのプログラムのセットをページにグループ化し、オーガナイズ・モードを使ってこれらを並べ替え可能
- ・ 外部キーボード機能：サウンド・セクションを自由に割り当てて外部キーボードでコントロールできるとともに、Nord Electro 6 から他のキーボードの演奏が可能

オルガン・セクション

- ・ C2D B3 トーンホイール・オルガン・シミュレーション、B3 ベース
- ・ Vox、Farfisa モデル
- ・ パイプ・オルガン・モデル × 2
- ・ 物理ドローバー × 9 (6D 61/73)
- ・ デジタル・ドローバー × 9 (6 HP)
- ・ パーカッション・コントロール
- ・ ビブラート/コーラス・コントロール
- ・ デュアル・オルガン・モード
- ・ マニュアル・オルガン・モード

ピアノ・セクション

- ・ メモリー容量：1GB メモリー (Nord Piano Library 用)
- ・ Nord Sound Manager を使用して、すべてのサウンドを入れ替え可能 (Mac/Win)
- ・ 最大時発音数：120
- ・ カテゴリー：グランド、アップライト、エレクトリック、デジタル、レイヤー、クラビネット/ハーブシコード
- ・ ベロシティ・カーブ：4 種類
- ・ ピアノ・フィルター
- ・ クラビネット EQ コントロール
- ・ アドバンスド・ストリング・レゾナンス (第2世代)：グランド・ピアノ、アップライト・ピアノで使用可能
- ・ ソフト・リリース機能を選択可能

サンプル・シンセ・セクション

- ・ メモリー容量：512MB メモリー (Nord Sample Library 用)
- ・ Nord Sound Manager を使用して、すべてのサンプルを入れ替え可能 (Mac/Win)
- ・ 工場出荷時に Nord Sample Library から 100 種類のサンプルを内蔵
- ・ 最大同時発音数：30 以上
- ・ アタック、ディケイ/リリース・コントロール
- ・ 4 レベルのダイナミクス・ベロシティ・コントロール
- ・ ベロシティ・センス付きロー・パス・フィルター

エフェクト・セクション

- ・ エフェクト 1：トレモロ、パン、ワウ、リング・モジュレーター
- ・ エフェクト 2：フェイザー × 2、コーラス × 2、フランジャー、ヴァイブ
- ・ オーバードライブ付きチューブ・アンプ・シミュレーション
- ・ ロータリー・スピーカー・シミュレーション
- ・ コンプレッサー
- ・ イコライザー：3 バンド (トレブル、ミッド、ベース)、各バンドとも ±15dB のブースト/カット可能、ミッドは中心周波数可変タイプ)
- ・ ディレイ：レイト、アマウント、およびミックス (ドライ/ウェット) コントロール、ステレオ・ピンポン、タップ・テンポ
- ・ リバース：3 アルゴリズム、ブライト・モード付き

鍵盤

- ・ Nord Electro 6D 61：61 鍵 (5 オクターブ、C～C)、ベロシティ・センス付きセミウェイテッド・ウォーターフォール・キーボード
- ・ Nord Electro 6D 73：73 鍵 (6 オクターブ、E～E)、ベロシティ・センス付きセミウェイテッド・ウォーターフォール・キーボード
- ・ Nord Electro 6 HP：73 鍵 (6 オクターブ、E～E)、ベロシティ・センス付きハンマー・アクション・ポータブル・キーボード

接続端子

- ・ オーディオ出力：LEFT OUT、RIGHT OUT、標準ジャック (アンバランス)
- ・ ヘッドフォン出力：標準ステレオ・ジャック
- ・ モニター入力：ミニステレオ・ジャック
- ・ サスティン・ペダル入力：標準ジャック
- ・ コントロール・ペダル入力：TRS ジャック
- ・ ローター・ペダル入力：標準ジャック
- ・ MIDI：MIDI IN、MIDI OUT (5 ピン DIN コネクター)
- ・ USB：タイプ B コネクター
- ・ 電源コネクター：IEC C14

付属品

- ・ 取扱説明書
- ・ 電源コード

オプション

- ・ Nord Keyboard Stand EX (HP モデルのみ)
- ・ Nord Soft Case
- ・ Nord Single Pedal
- ・ Nord Music Stand V2
- ・ Nord Half Moon Switch (6D 61/73 モデルのみ)

外形寸法

- Nord Electro 6D 61 : 900 (W) × 296 (D) × 97 (H) mm
- Nord Electro 6D 73 : 1,066 (W) × 296 (D) × 97 (H) mm
- Nord Electro 6 HP : 1,074 (W) × 344 (D) × 121 (H) mm

重量

- Nord Electro 5D 61 : 8.1kg
- Nord Electro 5D 73 : 9.2kg
- Nord Electro 5 HP : 11.4kg

仕様は予告なく変更することがあります。

本書は OS バージョン : 1.18 時に作成しています。今後のアップデートで機能の拡張やユーザー・インターフェースが変更になる場合があります。

本書に記載のブランド名、製品名はすべて各保有者の商標または登録商標であり、Clavia 社とは一切の関係はありません。また、これらの製品名、ブランド名は本機の性能やサウンドを説明するためにのみ使用しています。

